

古訓
醫傳

風寒熱病方緯篇

宇津木益夫 著

一

戊

武
203
1



門 械 9
辨 503
卷 1

昆臺宇津木先生述

古訓 醫傳 風寒熱病方緯篇

平安

視別軒藏



溫知社
圖書記

古訓醫傳卷十四

三篇



風寒熱病方緯篇第一

尾張 宇津木益夫 述

既ニ医学警悟并ニ經篇ノ弊端ニ說演夕リ故ニコ、ニ贅セズ、

○辨霍乱病脉證并治法第一

コレ病名ヲ以テ篇目ヲ立ル故ニ、緯篇ノ始ニ出シテ、第一トナス、サテ霍乱トハ、揮霍之際ニ、撩乱スルト云義ナリ、揮霍ハ夕チマチト云義、撩乱ハミダル、ト云義ニシテ、此病忽ニ内ノ陽氣乱レテ、塵脱ニ及ビ、須臾ノ間ニ死スル者多シ、故ニ病名ヲ以テコレヲ示シタルナリ、然ルニ内ノ陽氣

古訓醫傳 卷十四 霍乱篇

視別軒藏

乱レズ、脱志ニナラズシテ、忽ニ腹痛、嘔吐、下利スル者アリ、
 コノ病、夏ノ炎熱ノ時ニ多シ、故ニ素人其外医者マデモ、霍
 乱ニ混ジテ、治スル者アレバ、コレハ食滯カ、又ハ胸中ニ熱
 邪ノ鬱スル処アリテ、来ル者ニシテ、真ノ霍乱ニアラズ、皆
 類似ノ病ナリ、食滯ヨリ来ル、嘔吐、下利、腹痛ハ、大柴胡湯、熱
 邪胸中ニアリテ、腹痛、嘔吐、下利スルハ、黄連湯ノ主ル証、又
 コノ霍乱ハ、陽気忽チニ乱レ、脱スル陰証ニシテ、大柴胡湯、
 黄連湯ナドノ陽証トハ、天地懸隔ナレバ、ヨクク辨別シテ、
 治ヲ誤ルコトナカレ、京師ニテハ、霍乱并ニ暍病ヲオシナメ
 テ中暑ト云ナラハセバ、コノ三病、各辨別セズンバアルベ
 カラズ、

問曰、病有霍乱者何、答曰、嘔吐而利、名曰霍乱、
 コレ凡例ニシテ、唯病状ヲ其終出シタルナリ、問ノ辨ニ病
 ニ霍乱アリト云ハ、忽チニ陽気ノ撩乱スル病ガアルハ、イ
 カバト云フニテ、始ヨリ霍乱ト云病名ノミヲ尋タルニハ
 アラズ、故ニ答ノ語ニ、胃気ノ順環乱ル、故ニ嘔吐而利ス
 ルヲ、名ケテ霍乱ト云ト言タルナリ、コレ一切嘔吐而利ス
 ル者ヲ、霍乱ト名クルニハアラズ、問ノ霍乱ノ辨ノ内ニ、陽
 気ノ忽チニ乱ル、コトヲ含ミタルナリ、コノ意ヲ知ズシテ、
 陽証ノ嘔吐、下利ノ者ヲ、一涯ニ霍乱ニ混雜スル者アリ、前
 ニ説キタル所ノ、大柴胡湯、黄連湯ノ証等ヲ、ヨクク辨明シ
 テ、霍乱ハ始ヨリ脱証ナルコトヲ知ルベシ、

口問曰、病發熱、頭痛、身疼、惡寒、吐利者、此屬何病、答曰、此名霍亂、自吐下、又利止、復更發熱也、

又凡例ヲ以テ霍乱ハ陰脱ノ証ナルヲ示シタリ、按ズルニ太陽上篇、真武湯ノ附録ノ第二ケ条目ニ、病發熱、頭痛、脈反沈、若不差、身体疼痛、當救其裏、宜四逆湯トアリ、凡ソ陽証ノ表位ノ邪ハ、頭痛發熱トアリ、陰証裏位ニシテ、表病ニマキラハシキ者ハ、發熱ヲ先ニシテ、頭痛ヲ後ニス、故ニコノ証モ、内ノ陽氣忽チニ乱レテ、表外ニ向テ脱スル勢急ナルニ由テ、自發ノ太陽病ノ如ク、表ニ迫テハリ出ス証ニ、ヨク似タリ、イヘ、陰分ノ者ナレバ、陽氣外ニ脱スルヲ主トシテ、發熱ヲ先ニシ、且其勢急ナル故ニ、シテ、表ニ滯ル

ヲ見セシガ為ニ、頭痛身疼ヲ後ニ出セリ、然レ、凡病人ニ對シテハ、發熱、頭痛、身疼、惡寒、共ニ一時ニ來リテ、前後ノ差別ナシ、コレ但脱症ト実症トヲ辨別スル為ニ、病状ノ前後ニテ示シタルナリ、此義ヲヨク明カニスレバ、發熱ヨリ吐利ニ至ルマデ、皆陰脱ノ証ナルヲ知ルニ足レリ、故ニ其マキラハシキヲ示シ、問ヲ發シテ此屬何病ト云リ、答曰、此名霍乱ト、コレ陰分虚脱ニシテ、陽氣ノ忽チニ乱ル、証ニシテ、霍乱ナリト示セリ、霍乱ト名クト云片ハ、脱証陰証ナルヲ明カナリ、自吐下トハ、藥ノ衰又ハ水血ノ迫リニテスルニアラス、内ノ脱シテ自ラ吐下スルナリ、故ニ霍乱ハ、三陰ノ内、太陰ニ涉ル者多シ、又利止トハ、下利ノ治シタルニア

ラズ、ダンク陽氣ノ順環アシクナリ、血分ノビタ、ズシテ
 血凝リテ不順ニナレバ、下利スル水モ、其血ニツレテ滞リ
 テ、利ノ止ム者ナリ、利止ニ至レバ、下へ脱スル処シバラク
 滞ル故ニ、復更發熱スルナリ、コレ忽チニ下ノ氣ノ表外へ
 迫ル勢ヲ見セタルナリ、カヤウニ上下内外、シバラクモ所
 ヲ定メザルガ、内ノミダレテ霍乱ノ霍乱タル所以ナリ、已
 上ニケ条凡例ナリ、

○惡寒、脈微而復利、利止、亡血也、四逆加人參湯主之、

コレ上ノ凡例ノ霍乱ノ冒首ヲ受テ、本条ヲ出シタルナリ、
 上ノ自吐下、又利止、復更發熱也ト云ヨリ、コノ条ノ惡寒へ
 ウツリ、ダンク内虚シテ脈微ニナリ、ソノ上復利シテ、イヨ

く内ノ陽氣メクラザルニ至レバ、下利スル勢モ又ケテ、止
 ムニ至ル、コレ陽氣十分虚シテ、血マデモ行ラズ、水モツレ
 テ行ラヌ故ニ、利止ハ亡血也ト云リ、亡血トハ、血メクラズ
 シテ凝リ滞ルヲ云、經篇ニ其義委ク説タリ、故ニ畧ス、コレ
 上ノ条ノ病發熱頭痛ヨリ、コノ条ノ病状ニ至ルマデ、初メ
 カラ虚脱ニシテ、陰分ナレバ、四逆湯ノ主タル上ニ、亡血ヲ
 目當ニ、人參ヲ加ヘタルナリ、コノ条ハ後ノ加猪胆汁湯ニ
 照応シテ、虚脱ノ上ニ、血分ノ衰ヲ帶タル証ナリ、

○霍乱、頭痛、發熱、身疼痛、熱多、欲飲水者、五苓散主之、寒多、不
 用水者、理中丸主之、即人參湯

コノ条ハ、霍乱ノ陰分虚脱ノ症ノ中ニ、少シク陽分へ涉ル

証ト、又同ジ病状ニシテ、陽分ニ似テ、陰、塵ノ証トノ両岐ヲ示スナリ、然レ、凡陽分ニ涉リタリトテ、陽実ノ証ニアラス、但胃中ノ陽気外攻シテ、内津液ノメグラザル証ナレバ、陽分中ノ脱証ナリ、サテ前条ハ始ヨリ脱証ノ陰分故ニ、発熱ヲ先ニシ、頭痛ヲ後ニシテ、陰分ノ理ヲ示シ、コノ条ハ陽証ノ表位ノ如ク、頭痛ヲ先ニシ、発熱ヲ後ニス、コレ少シノ異同ニテ、陰陽表裏ヲ辨別シタルナリ、霍乱ノ二字ニ、常ノ自発病、并ニ外邪ノ表位ヲ侵シタルニハアラザルヲ見セテ、吐下ヲ経テモ経ズシテモ、内忽チニ撩乱スル中ニ、コノ証ハ少シク陽分气道ノ迫リヲ帯ル故ニ、表位ニ向テ迫ル勢アリ、故ニ裏水モ気モ俱ニ表位ニ滞リテ、頭痛發熱身疼痛

ノ病状ヲアラハセリ、コレ元來内ノ撩乱ヨリ、胃中ノ津液乾燥シテ、總身腹中凡ニ熱ヲ帯テ、水ヲ飲ント欲スル証故ニ、五苓散ヲ以テ、外迫スル津液ヲ、胃中へ順ラセバ治スルナリ、同ジ病状ナレ、凡、寒多キ者ハ、腹中熱セズ、ヒヤクトシテ、總身ニハ熱アリテモ、惡寒ヲ覺ル等ノ証アリテ、ソノ上ニ渴ハアリテモ、熱湯ヲ好ム者ナリ、コレ胃中ノ津液外出シテ後ニ、陽気モ俱ニ出尽シテ、腹中ノヒヤツクヲ覺ルナリ、同ジ病状胃中ノ變ナレ、凡、五苓散ハ、津液外出シ、胃気上行シテ渴ヲアラハス証、理中丸ハ、津液ト胃中ノ陽気ト共ニ脱シテ、熱湯ヲ好ム者ナリ、コノ中両方俱ニ霍乱ノ變ナレバ、下利ノアルコトハ察シテ知ルベシ、サテ理中丸ニシテ

用ルヨリハ、人參湯ニシテ用ル方大ニ宜シ、加減ノ法、臍上
 築スルトハ、右ノ証ノ上ニ、水飲臍上ニノボリテ動氣ノ如
 ク、心下マデノ処、ドククト響キヲ生ズルナリ、コレ本方ノ
 上ニ、氣逆上衝ノ証ヲ添テ、下ノ水氣ヲ引上ル者ナリ、故ニ
 桂ヲ加ヘテ、氣逆上衝ヲユルムレバ、腎氣ノ動キ自ラ止ム
 ナリ、腎氣トハ水氣ノ下ニテ、ソノ水ノ動クヲ云リ、方後ニ
 朮ヲ去トアルハ大ニアシ、朮ヲ去テハ、本方ノ主意ニ違
 ヘリ、下皆コレニ倣フベシ、コレハ太陽上篇ニアル、桂枝甘
 艸湯ノ、心下悸欲得、按ノ病証ヲ添タルナリ、吐多キ者ニハ、
 生姜ヲ加テ、上ニ水ノ動揺スルヲオサムルナリ、下多キ者
 ハ還テ朮ヲ用ルトアレ、凡、始ヨリ朮ヲ去ラ又故ニ、コノ句

贅セリ、悸者加茯苓二兩、コレ水ノヨドム処アリテ、悸スル
 者ニハ、茯苓ヲ加フベシ、若シ氣逆ノ為ニオビヤカサレテ
 悸スルハ、夕トヒ水ハ動テモ、主ニアラザル故ニ、前ニアル
 所ノ加桂ノ証ナリ、コノ茯苓ヲ加ルハ、苓桂甘朮湯ノ証ヲ
 添タルナリ、渴欲得水者、加朮足前成四兩半ト、コレハ五苓
 散ノ渴トハ、陰陽ノ子ガヒアレ、凡、水ノ行グリノアシキ故
 ニ、発スル渴ニシテ、ヤハリ熱湯ヲ好ム者多シ、若シ水ヲ好
 ム片ハ、五苓散ノ証ニ意ヲツクベシ、腹中痛者、加人參足前
 成四兩半ト、コレハ陽氣迫リテ血ノ不順ヨリ、凝テ痛ム者
 ナレバ、人參ヲ加ヘテ、血ノ凝リヲユルメルナリ、同ジ血分
 ニテモ、若拘牽シテ痛ム者ニハ、芍藥ヲ加フベシ、寒者、加干

姜足前成四兩半ト寒ノ字ノ上ニ前ノ腹中ノ字ヲ受テ見ルベシコレ腹中ノヒヤクスル者ナレバ干姜ヲ加テ温ムルナリ腹滿者加附子一枚トコレハ陽氣ノ不順環ニヨリテ腹ノ水血滯リテ滿スル者故附子ヲ加テ陽氣ヲメグラシ水血ヲ引ノバスナリ奥ノ嘔吐下利病篇ニ下利腹脹滿ニ四逆湯ヲ繫ギタルヲモ併セ考フベシ若轉筋者加石羔三兩トコレハ千金方并ニ三因方ノ理中湯ノ方後ニアリシヲ取り来リテコノ処ニ添タリコレ霍乱ノ虚脱陰位ノ証ナレバ内ノ氣不和シテ水血ノノビザル者ニハ筋牽ノ証アリ病証ノ變化不定ヲ知ルベシ以上加減ノ法初ニ桂アリ終ニ石羔アリテ内外ノ氣ニアツカルヲ示シテ水血

ノ變ヲ中ニ扱ミタリヨクク勘辨スベシ

○吐利止而身痛不休者當解其外宜桂枝湯小和之

コレ上ノ条ノ五苓散并ニ理中丸ヲ用テ胃中ノ津液復シ中焦モ理シ其外モ俱ニ和シテ治スル者モアリ又内ハ和シテ吐利ハ治シテ止デモ一旦外迫シタル表位ノ迫リ残テ身痛ノ休ザル者アリコレ病勢ハ大半治シテ少シノ表ノ不和ナレバ桂枝湯ヲ以テ其外ヲ解ス大ニ發スベキニアラス故ニ小和之ト云リ外ノ字ハ内ヨリ指ス辭ナレバ内ノ解シテ吐利ノ止ミタルニ對シテ外ノ解セズシテ身ノ痛ヲ云リ上ノ條ニテ霍乱ノ陰脱ノ中ニ五苓散ト理中丸トノ陰陽ノ差別アルヲ示シコノ條ニテ内ノ和シタル

後ニ表位ニ輕發ノ証アルヲ示シテ、霍乱一病ノ變化モ六
經ニ涉ルヲ知ラシメタリ、下皆其意ヲ以テ、一篇一篇ヲ
解スベキナリ、

○吐利、汗出、發熱、惡寒、四肢拘急、手足厥冷者、四逆湯主之、
コレハ前ノ五苓散理中丸ノ條ヲ受テ、霍乱ノ吐利ノ勢ニ
テ、一旦表位へ外迫スルヤウニ見ヘテ、内忽チニ脱スル証
ヲ示シタルナリ、コレ吐利ヨリシテ、一旦表位へ迫ル勢ア
ル故ニ、汗出發熱惡寒ノ表証ヲアラハストイヘ、凡、實ハ内
ヨリ脱スル証故ニ、外漏シテ、汗出以下ノ病状ヲアラハス
ナリ、前ノ五苓散ト理中丸ノ條ニ比スレバ、十分ノ脱証ニ
シテ、汗出ニヨリテ、身ノ痛ナシトイヘ、凡、血分不順ニシテ、

四肢拘急ヲナス、コ、ニ至リテ、汗出、發熱、惡寒、共ニ陰脱外
漏ノ証ナルヲ知ル、ソノ上手足厥冷スル者ハ、マ、スク、虚
寒ノ症ナレバ、四逆湯主之ト云リ、間、霍乱ニテ、始ヨリ此処
ニ及ブ者多シ、心ヲ用ユベシ、

○既吐、且利、小便復利、而大汗出、下利清穀、内寒外熱、脉微欲
絶者、通脈四逆湯主之、

又上ノ条ヲ受テ、一段甚シク脱スル症ヲ示セリ、前条ノ吐
利ハ、今最中吐利シテ、汗出ヨリ手足厥冷マテノ証ヲアラ
ハシ、コノ条ハ既吐ト云テ、コレ迄ニ吐モアリ、ソノ上ニ下
利モ經タルナリ、既ハ過去ノ辭ニテ、モハヤト云意ナリ、モ
ハヤ是迄ニ十分吐利シテ、又其上ニ小便モヨク通利シ、ソ

レノミナラズ、大ニ汗出ナリ、コレハ上ノ条ノ如ク、一旦外ニ迫ル勢ナク吐利ニヨリテ、内十分脱シテシマリナキ故ニ、小便モヨク通シ、汗モシタ、カニ出ルナリ、見ルベシ内ニ少シノ滯ル物モナク、皆上下表裏へ漏レ尽シテ、十分虚脱スルヲ故ニ下利清穀ノ上ニ、内寒外熱ト云リ、コレ霍乱病ハ、内ヨリ先ニ脱シテ、陽気ノ外漏スルニツレテ、外熱ノ証ヲアラハス、故ニ内寒外熱ト云ナリ、又少陰病ハ、陽気表ニ不順ニシテ、裏ニ潜ムヨリ、虚寒トナリテ、下利清穀ニ至ル、故ニ裏寒外熱ト云リ、又陽明病ノ外攻ノ脱証ハ、陽明ノ裏熱ダシク外攻シテ、胃中ノ陽気熱ト共ニ外ニ漏レ尽テ、胃中虚寒ニ及テ、下利清穀トナル、故ニ表熱裏寒ト云リ、

コレ表熱裏寒モ、裏寒外熱モ、共ニ下利清穀ノ証ニシテ、四逆湯ノ主タル証ナレ、由テ来ル所異ナル故ニ、三種ニ文字ヲ書キ換タリ、治療ニ於テハ差別ナシトイヘ、凡、病理ノ変化ノ表裏内外ヲ委シク示サン為ナレバ、其意ヲ察知スベキナリ、其上ニ脉微ニ至リ、欲絶ニ至ル、コレ四逆湯ノ十分ノ脱証ナレバ、干姜ヲ倍加シテ、通脉四逆湯主之ト云リ、○吐已、下断、汗出而厥、四肢拘急不解、脉微欲絶者、通脉四逆加猪胆汁湯主之、

コノ条ニ至リテハ、吐利ノ勢モナク、十二分マデモ脱シ尽シテ、モハヤ陽気モ絶セントスルニ至リタルナリ、吐已ト云テ、吐ノ治シタルニハアラズ、吐スル勢ノツキタルナリ、

下断モ同ジク下利ノ治シタルニアラズ、陽氣虚シテ血分
 トントメグラザル故ナリ、然レ凡血ノ迫リテ凝結シタル
 ニハアラズ、故ニ表ハ汗出テ、一身共ニ冷トナレリ、厥ノ字
 バカリニテ、手足ノ字ナキハ、總身共ニ厥冷スルナリ、ソノ
 上ニ四肢拘急モ不解、コレ四肢拘急モ、血分ノ不順ヨリ来
 レリ、通脉四逆湯ノ条ハ、水気陽氣ト共ニ脱スル故ニ、血分
 ノ衰ナシ、前ノ四逆湯ハ、四肢拘急ノミニシテ、血ノ凝滯ス
 ルヨリハ少シク輕シ、此条ハ前ノ二ヶ条ヲ受テ、ソノ上始
 ノ四逆加人參湯ノ亡血ノ条ニ照応シテ、霍乱ノ十二分迄
 モ脱シタル者ナレバ、カヤウニ吐下迄モナラヌヤウニ、血
 分ノ凝滯スルヲ示シ、血分凝滯シテ、陽氣欲絶ニ至リテ、脉

モカヨハヌ故ニ、脉微欲絶者ハ、通脉四逆湯ニ、猪胆汁ヲ加
 テ、血分ヲ推シ開キユルメルナリ、前ニモ云シ如ク、霍乱ノ
 証ハ始ヨリ内脱ノ者多シ、夕々く津液ノミヌケテ、五苓散
 ノ証アレバ、ヤハリ胃中ノ弱キ者ニシテ、胃氣上行シテ、下
 ニ静定ナラザル証ナレバ、何レ霍乱ハ、胃中ノ虚脱ヲ以テ
 目當トスベシ、其中ニモ吐利止、而胃中ノ和シタル後ニ、外
 攻シタル身痛ノミ止ザル者ニハ、桂枝湯ノ証モアレバ、霍
 乱ノ治シタル後ノナレバ、シカト目當ニハナリガタシ、
 彼ノ始ニ説シ如ク、大柴胡湯、黄連湯ノ兩様ハ、カエスベシ、
 霍乱ニ似タルヲ萬々ナル故、混雜セヌ様ニ診スベシ、
 以上八ヶ条、内二ヶ条ハ凡例、内六ヶ条ハ本文ナリ、コレヨ

古言醫傳 卷十四 十 見川千

リ篇ゴトニ附録ノアルモアリナキモアリ、是ハ千金外臺ニ至ルマデ、本病ヲ治スルニ益アル方ヲ、附録トナシタルナリ、故ニ其他余ガ經驗シタル、一二新補ノ附録ヲ載ス、読者コレヲ察セヨ、

△千金治中湯 即理中丸 治霍乱吐下、脹滿、食不消化、心腹痛、

三因
六同

△千金四順湯 即四逆加人参湯 治霍乱轉筋、肉冷、汗出、呃呃者、范汪云利

甚加竜
骨二両

△千金附子粳米湯、治霍乱、四逆、吐少、呃多者、即本方加

△千金當帰四逆加呉茱萸生姜湯 千金單作四逆湯 治多寒、手足厥

冷、脉絶、方在經篇 ○舊方用枣三十枚、今霍乱病、法多痞、故減之、

如退、枣入、葛根二両佳、霍乱四逆、加半夏一合、附子小者一枚、惡寒、乃与大附子、

△外臺肘後療霍乱苦呕不息、干姜、茱萸湯、干姜、茱萸 各二両

二味、以水二升、煮取一升、頓服之、下不止、手足逆冷者、加椒

百粒、附子一枚、以水三升、煮取一升、頓服、

△三因方茯苓沢泻湯、治霍乱吐利後、煩渴、欲飲水、

コノ他、諸書ニ載ル所ノ、霍乱ノ證、治ヲ引テ、附セントスレバ、多端ナレバ、コレヲ畧ス、コノ病至テ急卒ノ証ナレバ、虚実陰陽ヲヨク辨別シテ、治ヲ誤ルナカレ、此外宋元以後、輒近ノ方書ニ至ル迄モ、經緯篇ノ條理ニ違ズシテ、方意ノ明ナル者ハ、皆一一抄録シテ、附方トナスベシ、世上ノ如ク、

古医方トイヘバ、傷寒金匱ノ二書ニカギルハ固陋ナリ、又
 雜方家ノ亡洋トシテ畔涯ナク、茫然トシテトラマヘ処ノ
 ナキハ、実ニ素人同様ナリ、何レ凡ニ經緯ノ條理ヲ明ニシ、
 八條目ヲ以テ、病者ニ臨テ、自在ノ出来ル処マデ、学得テ後、
 博ク後世ノ書ヲモ、涉獵スベシ、以下新補ノ附録、コレニ倣
 フベシ、

此處に、
 凡ソ病後氣力ノ常ニ復セザル者ハ、房事ヲ始トシテ、一切
 カヲ勞スルヲナク、食物ニ至ルマデ慎ムベキ者ナリ、三因
 方ニモ、其男子、病新差未平復、而婦人与之交接、得病、名曰陽
 易、裏急、腰蹠連、腹内痛、婦人病新差未平復、而男子与之交接、
 得病、名曰陰易、身重、少氣、陰腫入裏、腹内絞痛、熱上衝胸、頭痛
 不欲舉、眼中生花、盖男女病相換易、故謂之陰陽易、又傷寒新
 差、不能將振、因憂愁思慮、勞神而復、或梳沐洗浴、作勞而復、並
 謂之勞復、或飲食不節、謂之食復、此皆大病後、精神血氣腸胃
 並虛之所致也、論有正方、可依證調治、唯犯房室、為女勞復、多
 死不治トアリ、凡テコナ篇ハ、右ノ慎ヲ忘レテ、再発スル者

○辨陰陽易差後勞復病脈證并治法第二

凡ソ病後氣力ノ常ニ復セザル者ハ、房事ヲ始トシテ、一切
 カヲ勞スルヲナク、食物ニ至ルマデ慎ムベキ者ナリ、三因
 方ニモ、其男子、病新差未平復、而婦人与之交接、得病、名曰陽
 易、裏急、腰蹠連、腹内痛、婦人病新差未平復、而男子与之交接、
 得病、名曰陰易、身重、少氣、陰腫入裏、腹内絞痛、熱上衝胸、頭痛
 不欲舉、眼中生花、盖男女病相換易、故謂之陰陽易、又傷寒新
 差、不能將振、因憂愁思慮、勞神而復、或梳沐洗浴、作勞而復、並
 謂之勞復、或飲食不節、謂之食復、此皆大病後、精神血氣腸胃
 並虛之所致也、論有正方、可依證調治、唯犯房室、為女勞復、多
 死不治トアリ、凡テコナ篇ハ、右ノ慎ヲ忘レテ、再発スル者

ノ治ヲ載セタルノミナラズ、戒ヲモ含ミタルト知ルベシ、
妄者ノ為ニ、聖賢ノ心ヲ用ヒ、仁ヲ施ス、ノ深切ナルヲ察
スベシ、

○傷寒、陰陽易之為病、其人身体重、少氣、少腹裏急、或引陰中
拘牽、熱上衝胸、頭重不欲舉、眼中生花、膝脛拘急者、燒視散主
之、

夫陰陽易トハ、三因方ニ出セシ如ク、男子ノ病新ニ差テ、氣
血イマダ平復セザル片、婦人コレト交接シテ、病ヲ得ルヲ、
陽易ト名ケ、女人ノ病新ニ差テ、イマダ平復セザル片、男子
コレト交接シテ、病ヲ得ルヲ、陰易ト名ケ、蓋シ男女ノ病、相
換易スルヲ以テ、陰陽易ト名クルナリ、又病後交接シテ、其

病ノ再發スルモ、陰陽易ノ類ニシテ、女勞復トモ名ク、コノ
陰陽易ハ多クハ死スル者ナレ、凡コ、ニ治方ヲ舉タレバ、
救フベキ証ヲ辨察スベシ、其外思慮ヲ費シ、身体ヲ勞シテ、
再ビ惱ムヲ勞復ト云ヒ、飲食ヨリシテ復スルヲ、食復ト名
ク、何レモ妄者ノ調養ヲ慎マザルヨリシテ、起ル病ニシテ、
賤キ者ニ多キ病ナリト知ルベシ、其人トアルハ、陰陽易ニ
限ラズ、身体重以下ノ証ヲ病ム者アレバナリ、凡ソ熱病ノ
人ニ親近シテスラ、傳染シテ死ニ至ル者多シ、况ヤ熱毒ノ
残リタル病人ニ、交接スルヲヤ、身体ノ重キノミナラズ、熱
氣モ俱ニ胸中ニ引シマリテ、少氣トナリ、下部動搖シテ、少
腹ノ邊カ、ナク、内へ引付ルヤウニ覺ヘ、ソレヨリ陰莖ノ中、

又ハ陰門ノ中へ、何カ物ノツ、ハリタルヤウニ引パリテ、起居トモニ不自由ニナリ、熱氣ノボリテ胸ニ衝上ルノミナラズ、頭重クシテ拳ルニカ、ナク、少シモ拳ントスル心持ナシ、眼中ニイロク、モヤクシタル曇リガ出来テ、物ヲ見ルニ眼暗ウトク、膝モ脛モ拘急シテ、引パリ痛ムニ至ル、コレ陰陽易ヨリ、此ノ如キノ病形ヲ生ズル者ナリ、コノ燒視散ハ、陰陽易ノ因ヨリシテ、思ヒ付タル様ニ見エテ、何ヲ目當トシテ用ルヤ覺束ナシ、併シ色々ノ病状ハアレ、凡陰陽易ノ因、タシカナラバ、此藥ニテ皆治スベキヤ否ヤ、余未ダ驗試シタルコトナシ、コレ迄コノ証ニ逢フキハ、桂枝竜骨牡蛎湯、又ハ桂枝加朮附湯、小建中湯、八味丸等ヲ用テ功ノ得タ

リ、ヨククハ八条目ヲ推テ方ヲ處スベシ、

○大病差後、勞復者、枳實梔子湯主之、若有宿食者、加大黃如博碁子大五六枚、

病源候論ニ、傷寒温疫之類、曰之大病トアリテ、何レ傷寒ニモセヨ、温疫ニモセヨ、差テ後、氣血ノ未ダ常ニ復セザル中ニ、妄リニ起居シテカ、ヲ用ヒ、又ハ思慮ヲ過度シテ來ルヲ勞復ト云、コノ条ニハ勞復者トノミニテ、証ヲ云ザレ、凡何レ身體虚弱ニシテ、胃氣ノ力ナキヨリ、氣胸中ニ迫リ、水モ忒凝テ、胸ニアツマルナリ、故ニ梔子豉湯ニ、枳實ヲ加テ、胸中ノ氣ト水トヲユルメルナリ、若コノ証ニテ、食物順環セズシテ、一處ニタマル者ニハ、大黃ヲ加テ之ヲ疏スナリ、コ

ノ内ニ食復ノ証モアラバ、始ヨリ大黃ヲ入テ、梔子大黃湯ニシテ用ユベシ、

○傷寒差已後、更發熱者、小柴胡湯主之、脈浮者、以汗解之、脈沈實者、以下解之、

コノ条ハ、凡例ノ書ブリニシテ、上中下ノ位ヲ分テ見セ夕リ、サテ傷寒ニテ一旦差已テ後、更ニ發熱スル者ニ、太陽陽明少陽ノ別アリ、少陽ヨリ來ル發熱ナラバ、小柴胡湯ヲ以テ主トスベシ、故ニ小柴胡湯主之トアレ、凡、柴胡部類ニ付テ、勘フベキコトナリ、其人ノ宿ニヨリテ少異アルナリ、浮脈ニシテ發熱スル者ハ、發表ヲ以テ主トスベシ、コレ太陽ナリ、脈沈實ニシテ發熱スル者ハ、陽明ノ發熱ナレバ、下劑

ニテ解ス、凡ソ發熱ハ大表ニ見ハル、者ナレ、凡、三陽ノ辨別アルコト、已ニ經篇ニ述夕リ、併セ考フベシ、

○大病差後、從腰以下、有水氣者、牡蛎沢瀉散主之、

コレハ病後氣血ノ不順ヨリ、水氣ノ巡行ヌルケレ、凡、氣逆ノ迫リナキ故ニ、上部ハサマデモナク、夕、下部腰以下ニ、水氣ノタマル証ナリ、故ニ疼痛等ノ証ナシ、コレ牡蛎沢瀉散ヲ以テ、下部ノ水ヲメグラシテ、小水ヲ通利スベキ者ナリ、其内ニモ其人ノ宿ニヨリテ、五苓散ノ桂ヲ去リ、牡蛎ノ加フベキ証モアリ、猪苓湯ノ証モアリ、イヅレ病後ノ水氣ナレバ、一色片寄リタルコトナシ、廣ク水氣ノ藥方ヲ考テ、八

○大病差後喜唾久不了了者胃上有寒當以丸藥温之宜理中丸

コレハ大病ノ差タル後胃氣ノメグリアシキ故ニ食物飲物ノ類胃中ヘメグラズシテ胃上ニ滯リ其水飲口中ニ迫ル故ニ始終唾ヲハキツバケルナリ凡ソ大人小兒トモニ喜テ唾スル者ハ胸中ニ陽氣メグラズシテ水飲ヲ引キンメタル者ニシテ久不了了ト久クサツパリ和セ又ナリ此胃中ヨリ上ニアル水飲ナレバ胃上有寒ト云リコノ寒ハ実証ノ寒ニアラズ陽氣ノ乏キ胃中ノ不順ナル証ナレバ理中丸ヲ以テ内ノ陽氣ヲメグラシテ水飲ヲサバクナリ又一種暴食大食ノ人十分ニ飽滿スルヨリ常ニ口中ニ餘

食ヲ含ミテイツ迄モ食味ノ尽ヌ者アリコレハ十分ニ飽滿シテ咽喉マデモ食氣ツマリテ久不了了者ナレバ別ニ病苦ニハアヲザレモ畢竟病ノ根本ニナルベキ因トレバ心得テ食ヲ減ジサスベシ又心胸腹トモニ滿スル疾ハ茯苓飲ニ半夏甘艸厚朴ヲ加テ用ユベシ其終ニ棄置テ和セザル疾外邪ヲ受レバ食滯等ノ病トナル夕トヒ外邪ヲ受スシテモ竟ニハ留飲持トナル者ナリイツレ大食飽食大酒豪飲多滯ノ人ニ長命ナル者ナシ皆自ラ促メテ死スル者ナレバ可恐可慎

○傷寒解後虛羸少氣氣逆欲吐者竹葉石羔湯主之
コノ条ハ傷寒ノ緊縮ノ邪ノ一旦解シテ後ニ氣熱猶未ダ

サメズシテ、津液虚耗シ、身体疲労シテ、逆上強ク、或ハ頭痛
又ハ発熱アリテモ、表証ニアラズシテ、内ノ気熱ノ上逆ヨ
リ来ル者ナリ、甚シキニ至リテハ、吐セント欲スルノミナ
ラズ、嘔吐スル者モ間多シ、コノ方気逆少気ヲユルメル
速ナリ、己ニ經篇陽明篇ノ傷寒ノ条ニ、循衣摸牀、惕而不安
ノ証ニ、真武湯ト、コノ竹石ノ証ノ辨別アルヲ示シタリ、
併セ考フベシ、又厥陰篇ノ麻黄升麻湯ヲ、コノ竹石一代へ
テ用ルヲ多シ、厥陰篇ヲモ併セ考フベシ、又下血ノ証ニ、
逆ヲユルメル片ハ、自ラ止ムトアリ、奥ノ吐血下血病篇ヲ
モ併セ考フベシ、何レコノ方ハ、活用ノ廣キ方ナレバ、平生
ニ心ヲ用テ考フベシ、

○病後、勞復發熱者、麦門冬湯主之、

コノ一条ハ、坊本ノ金匱要略ニハナシ、金匱玉函經ニアル
ヲ以テ、今コノ処ニ補ヒタリ、此ハ前条ノ竹石ノ証ニ似テ、
熱気ナク、夕々津液ノ涸枯スルヨリ、口中乾燥シ、咽喉迄モ
カラツキテ、病後ニ少シノ動搖ニテモ、皮表ニ熱ノ出ル様
ニ思ヒ、或ハ下部力ナクシテ、頻ニ逆上シ、始終眩暈ノ気味
アルカ、又ハ足冷頭熱シテ、脈ニハ熱ノ模様ノナキ証ニ用
テ、気逆上衝ヲユルメルナリ、厥陰篇ノ麻黄升麻湯ノ証ニ、
竹石ト、コノ方トヲ換用ルヲアリ、奥ノ本条ノ大逆上気、咽
喉不利ノ、麦門冬湯ノ条ヲモ併セ考ベシ、

△病者、脉已解、而日暮微煩、以病新差、人強与穀、脾胃气尚弱、

不能消穀故令微煩損穀則愈

コレ世上ニ沢山ニアル証ナリ、病者脈已解トテ、内外陰陽共ニヨク和シテ、何ノ偏^カル処モナクシテ、全快ニ及ビタリトイヘ、日暮ニナレバ微煩ヲナセリ、コレ日暮ニハ限ラザレ、裏ノ方陰分ニ、一氣ノ及ブ時ヲ主トシテ、拳示シタルナリ、コレハ病苦ハ治シタリトイヘ、氣力常ニ復セズ、脾胃ノ氣尚弱クシテ、食物ヲ消磨スルカ、ノナキ者ニ、介抱人ヨリ強テ厚味ヲ与ルカ、又ハ病新ニ差テ、俄ニ食味ノ出ルヨリ、自身ニモ食リ喰フニヨリテ、食物消化セズ、内ニ滯リテ微煩ヲナセリ、ソレノミナラズ、病後ニカ、ヲツケント欲シテ、種々ノ食物ヲ与ル処カラ、イロクノ病証ヲ再発ス

ル者沢山ニアリ、故ニ病後ニハ第一ニ食物ヲ禁止セズンバアルベカラズ、コノ微煩ノ如キハ、食物サヘ損減スレバ、治スレ、厚味ヲ過シテ、下利ノ来ル者ハ、竟ニ救フベカラザルニ至ル者多シ、畏ルベシ、慎ムベシ、

△吐利、發汗、脈平、小煩者、以新虛不勝穀氣故也、

コレ亦前条ト同ク、一旦吐利發汗シテ、脈平ニ至ル者ハ、病苦ハ愈タリトイヘ、吐利發汗ニテ、津液枯テ、氣力常ニ復セザル者ナリ、故ニ過食ハセザレ、食氣ニ勝ルコト不能シテ、小煩スルナリ、コレ新ニ虛スルト云処ニ、病苦ハ治シタレ、氣力常ニ復セズ、全快ニ至ラヌ処ヲ見セタリ、故ニ前条トハ少シク異ニシテ、未ダ葶中ニ在テ、起居動作モ十

分平生ニ復セザル者ト見ヘタリ、コノ二ケ条ハ、食復ヲ戒
メテ、附録トナセリ、本条ノ陰陽易ニ、房室ヲ戒メ、前後相對
シテ、病アル片ハ勿論、飲食房事ハ、病後迄モ慎戒スベキ
ヲ出セリ、莊子ニモ、飲食姪席之際、人之大欲存焉ト云タリ、
此慎ミナクシテ横夫スル者、不便ノ至リナリ、吁、

己上九ケ条、凡例本条附録共ニ備レリ、

△千金黃龍湯治傷寒差後、更頭痛、壯熱煩悶、方即小柴胡湯

△千金竹葉湯治發汗後、表裏虛煩、不可攻者、方即竹石湯

△外臺張文仲梔子豉湯療吐下後、虛羸欲死、即仲景方

○辨瘧濕暈病脈證并治法第三

コノ篇ハ、瘧濕暈ノ三病ヲ一篇ニ組立タリ、先瘧病トハ、角
弓反張シテ、甚シキニ至レバ、人事ヲ省ミザル者ヲ云リ、大
人ノ積氣ヲ始トシテ、驚癇ノ類、小兒ノ驚風馬脾風ノ類、ソ
ノ外何病ヨリ来リテモ、目ヲ見ツメ引付ル等、皆コノ瘧ノ
一証ニコモレリ、故ニ飛尸鬼擊等モ、咸コノ類ナリト知ル
ベシ、サテ濕トハ、俗ニ云ヒエト同ジトニテ、其人々ノ宿ニ
ヨリテ、色々ノ証アレ、凡先大体一身ノ水氣滯リテ、常ノ如
ク順環セザル者是ナリ、然レ凡京師ニテ濕ト云ハ、瘧毒ノ
トニテ、田舎ニテカサト云病ナリ、瘧毒ト濕家トハ、少シク
異ナレ、凡形ハ似タル者多シ、濕ハ、先ニ云ヒエノトニテ、一

身ノ瘡汁瘡水主トナリテ疼痛ニ堪難ク、陽氣ノ不順ノ者多シ、癩毒モ瘡水瘡汁ハ兼レ、疔瘡血瘡毒主トナリテ、下疳、便毒、楊梅瘡ノ類ノ出物アリ、湿ハ右等ノ出物ナク、タゞ總身ノ瘡汁不順ニシテ、氣ト共ニ滯リテ、一身疼痛スルナリ、左スレバ癩毒ハ実証、湿ハ虚分ト、大体ヲ分ツベキナリ、故ニ微毒ノ者モ、虚分ニ陷レバ、湿家ト治ヲ同フスル者アリ、湿家実シテ、熱毒ヲ生ズレバ、出物ナドアリテ、癩毒ト治ヲ同フスル者アリ、病者ノ宿ニヨリテ、各異ナル処アレ、疔、癩、毒家ノ出物ナク、一身ノ疼痛スル、コレ湿家ナリ、湿家ノ瘡汁蒸熟シ、瘡血ヲ兼テ出物ノアル、コレ微毒家ナリ、京師ニテハ湿ト癩毒ト名ヲ混ズルガ故ニ、其理ヲ説キ別ツトイ

ヘ、疔、素ヨリ湿ハ雨湿ヲ始トシテ、彼ノ所謂山嵐ノ瘴氣、露、霜、雪ノ氣ニ侵サレテ、一身ノ水血ノ滯ルヨリ、瘡汁瘡血トナリテナヤム者ナリ、コレ其人ノ宿ニ右等ノ毒ヲ受テ、醸成スル宿根アルガ故ナリ、若宿根ナクシテ、壯健ナル生レ付ナラバ、何ノ惱カ有ニ、其宿根トハ何如ナル物ソト云ニ、生レ付ノ虚実ニヨリテ各異ナレ、疔、先酒肉ニ長ジ、色慾ニ耽リ、或ハ体ニ忘ゼザル、遠足力量ヲナシ、又ハ名利ニ付テ種々心勞ヲナシテヨリ、内ノ陰陽何トナク不順ニナルニ付テ、虚ノ宿ハ湿家ノ証トナリ、実ノ宿ハ癩毒ノ証トナルナリ、然レ、疔、湿家ハ虚実共ニ、雨湿瘴氣主トナルニ似タリ、癩家ハ酒肉色慾ニテ、根ヲ培フニ似タレバ、ヨク識別

シテ治ヲ誤ラヌ様ニスベシ、近來世間ニ癘氣ヲ帶サル者
 ナキハ、皆食物ノ膏粱ナルニヨル所ナリ、コレ亦考テ其証
 ヲ察スベシ、サテ暍トハ、暑邪ニアタリタルヲ云リ、按スル
 ニ前漢書武帝本紀曰、元封四年、夏大旱、民多暍死ト、注ニ如
 淳曰、暍音謁、師古曰、中熱而死也トアレバ、暑熱ニアタリタ
 ルトナリ、中暑ト云テモヨケレ、京師ノ方言ニ、夏日ノ霍
 乱、又ハ小兒ナド暑中ニ急ニ取ツメ引付テ、瘧病ノ形ヲナ
 ス者ヲ、スベテ中暑ト云テ混ズル者多シ、故ニ中暑、霍乱、暍
 病、各其証ヲ識別スベシ、

□病者、身熱、足寒、頸項強急、惡寒、時頭熱、面赤、目赤、獨頭動搖、
 卒口噤、背反張者、瘧病也、若發其汗者、寒濕相得、其表益虛、即

惡寒甚、發其汗已、其脈如蛇、一云其脈滄々

コレ瘧病ノ總凡例ニシテ、少陽ノ位ニアル者ヲ、舉タリ、太
 陽ト陽明トハ、本文ニ出シタレバ、瘧ノ一病モ、横ニ六經ヲ
 貫クノ緯タルヲ察スベシ、諸病者身熱トアリ、身熱ハ上
 太陽ノ發熱ニアラズ、下陽明ノ胃熱ニアラズ、一身ニジツ
 クリトアル熱ニシテ、少陽ノ主タル熱ナリ、コノ熱ノアル
 者ハ、手足共ニ温ナルトハ、己ニ經篇ニ明ナリ、然ルニ此病
 者ハ、其熱少陽ヨリ上行シテ、上ヅリニナル故ニ、足ハ寒ス
 ルナリ、サテ足ノヒユル位ニ、逆上ノ強キ者ハ、其上逆ニヨ
 リテ、頸項ノ処強急シ、表氣シマリテ外ニ達セザル故ニ、惡
 寒ヲナス、ソノウヘ頭ニ熱出テ、クハワクトスルナリ、コレ

始終カヤウニナルニハアテズ故ニ時ノ字アリ其熱面ニ
 アラハレテ赤クナリ又目モ赤クナルコレ少陽ノ裏熱ノ
 上逆ナルガ故ニ目赤クナルナリ其上ソノ上逆マスキ強
 クナレバ上部バカリ盛ニナリテ獨リ頭ノミ動クナリ右
 ノ如ク頭面頤項ニ上逆スル勢胸脇ニ迫リテ卒ニ口噤シ
 テトリツメソリ反ルコレヲ背反張ト云コノ病状ヲアラ
 ハス者ヲ瘧病ト云ナリ故ニ背反張者瘧病也トアリコレ
 ヲ以テ觀ルベシ一切何病ヨリ来リテモカヤウニ取ツメ
 ル証ヲ通シテ瘧ト云ベキヲ若發汗以下ハコノ少陽ノ
 瘧病ノ戒ナリ少陽ハ汗吐下共ニアシキヲハ經篇ニ述タ
 リソレニ若發汗スル片ハ事ノナキ表ヲ動ス故ニ内ノ水

氣ノシマリ強クナリ表氣徒ラニ虚シテ惡寒甚シクナル
 ナリコノ惡寒ハ汗後ノ脱症ニシテ始ノ惡寒トハ異ナリ
 寒湿相得ト云ハ水氣モ俱ニ寒テ瘧ヲ發シタル処ヲ誤テ
 發汗シテ表陽虚スルト寒タル内ノ水氣マスキ寒テ瘧水
 トナルコレヲ寒湿ト云リ表氣亡ビテ其寒湿ノシマリ強
 クナルト惡寒甚シクナルナリ發其汗已其脉如蛇トハ表
 ハ發汗ニテ虚シ内ハ寒湿ニテ凝リタル故ニ内ハ少シク
 堅ク滑脉ノヤウニシテ表ノシマリ惡キ故ニウ子クリテ
 蛇ノ如キ脉ヲアラハスナリコレ寒湿相得ト其表ノ虚ス
 ルトニテコノ脉ヲアラハスナリ一本ニ滄々トアルモ水
 ノ流ルハ状ニシテシマリナクスム状ナリ

口暴腹脹大者、為欲解、其脈如故、反伏弦者、瘥、

コレ瘥病ニテ、十分上迫シタル故ニ、腹部モ胸中以上ニツ
リ上ラレテ、板ノ如ク背ニ付テアリシニ、其腹暴ニ脹テ大
ニナル者ハ、上迫ユルンデ、瘥ノ解セントスル者ナリ、故ニ
為欲解ト云リ、然レ、尺脈ハヤハリ故ノ如クナルカ、又ハ以
前ヨリモ内ニ伏シテ弦ナル者ハ、一旦ハユルムトイヘ、尺
再ヒ瘥ヲ発スル者ナリ、

口夫瘥脈、按之緊如弦、直上下行、一云築々而弦、脈經云、瘥家
其脈伏緊、直上下、

ソレ瘥病ハ、反張スル位ニ上迫スル故ニ、表裏ノ異ハアレ
尺脈モ緊トナリ、弦トナリ、三部共ニ引貫キタル如ク、引張

リテ、直ニ上下ニ行クガ如キ脈ヲアラハスナリ、故ニ直上
下行ト云リ、一云築々而弦トハ、脈ノ動キ進ム状、指頭ニ一
以宛、築ト往キ當ル様ニシテ弦ナルナリ、脈經ニ、伏緊直上
下ト云ヒ、以上ノ心得ニテ診察スベキナリ、然レ、尺表裏内
外、陰陽虛実ノ別アルハ、何ノ脈ニテモ心ヲ用テ辨別ス
ベシ、

口太陽病、發熱、无汗、反惡寒者、名曰剛瘥、

サテ經篇ニ委シク説示シタル如ク、自発ノ太陽病ニテ、發
熱无汗者ハ、惡風シテ惡寒ノナキガ相當ナリ、若惡寒ノア
ル者ハ、裏ニ及ビタル者ナリ、然ルニコノ瘥病ハ、太陽表証
ナガラモ、表ニテ強ク水血ヲカラミタル故ニ、惡寒ヲナス、

コレ其常ニ反スルヲ以テ、反ト云リ、右ノ如ク无汗シテ惡寒ノアル、太陽自發ノ瘧病ヲ、剛瘧ト云ナリ、又次ノ条ニハ、汗出而不惡寒ノ柔瘧アリ、コレ表証ノ瘧病ニ、剛柔ヲ分チタルハ、暗ニ虛実ノ意ヲ含ミタルナリ、始ノ凡例ノ少陽ノ瘧病、并ニ後ノ本文ノ大承氣湯ノ瘧病ニモ、皆虛実アルヲ察スベシ、ミナ宿ノ異ナル所以ニシテ、コノ差別アル也、

○太陽病、發熱、汗出、而不惡寒、名曰柔瘧、

前条ト同ク、太陽自發ノ瘧病ナレ、汗出テ惡寒ノナキヲ以テ、氣道ノミノ証ナルヲ示シテ、柔瘧ト名ケタルナリ、已ニ前条ニ云シ如ク、水血ノ迫リノ強キ証ト、又水血ノ迫リナクシテ、氣ノ凝結シテ、不和ヲ生ジタル瘧トヲ分チ

テ、剛柔ノ名ヲ命ジタルナリ、

コノ二ヶ条ハ、太陽自發ノ瘧ヲ示ストイヘ、中ニ外邪ヨリ来リテモ、太陽表位ニアタリテ、瘧ヲ發スル者ノアルヲ含ニテ見ルベシ、時ニ緯篇ハ、病名ヲ以テ篇目ヲ立ル故ニ、病状ヲ先ニシテ、六經ヲ後ニス、コレ此篇ノ例ナリ、已上ノ五ヶ条ハ、凡例タリトイヘ、本文ニ奉タル証ト、各異ナル故ニ、一条ヅ、皆其病状ノ差別アルヲ察スベシ、

○太陽病、其證備、身体強、凡几然、脉反沈遲、此為瘧、桔萸桂枝湯主之、

サテ凡例ノ柔瘧ヲ受テ、コノ条ヲ本文ノ始ニ出セリ、コレ經篇ノ例ト同ク、輕証ヨリ奉タルナリ、サテ太陽病、其証備

トハ桂枝湯ノ証ノ備リタルナリ、其上ニ身体ノ強ヲ以テ、
 枯婁根ノ主タル処ヲ見セタリ、コノ証若シ水主トナル片
 ハ、痛ヲ生ズベシ、又血分ノ主トナルハ、次ノ葛根湯ノ剛瘥
 ノ証ナレバ、コレハ自發ノ太陽病ニシテ、桂枝湯ノ証ノ上
 ニ、總身ノ氣道不順ニシテ、主ニハアラザレバ、氣ノ為ニ一
 身ノ皮表ノ水血シメラレテ、行ラザルヨリ、身体強リテ重
 キナリ、故ニ身体強、凡几然タリト云リ、コノ凡几然ヲモ、程
 雲来以下、本朝ノ說者ニ至ルマデ、皆音殊トナス、大ニ謬
 レリ、余凡几ノ說アリ、既ニ經篇葛根湯ノ条ニ出セリ、サテ右
 ノ如ク太陽皮表ノ迫リニシテ、殊ニ枯婁桂枝湯ノ適証ナ
 レバ、表脈ヲアラハスベキ筈ナルニ、裏ニ伏シテ沈遲ナリ、

故ニ反ノ字ヲ置リ、コレ表氣ノ勁急ツヨキ故ニ、脈モ表一
 デノビスシテ、裏ニ伏シ、且氣道ノスラク行ラザルヲ以テ、
 沈遲トナレリ、カヤウニ表証ニシテ、裏脈ヲアラハス位ニ
 勁急スルハ、瘥病ノ状ナリ、故ニ此為瘥ト云リ、按ズルニ太
 陽上篇ノ新加湯ノ証ハ、發汗後、身疼痛シテ、脈沈遲ヲアラ
 ハストイヘバ、反ノ字ナキハ、彼ハ發汗後ニ、裏血ノ外迫ス
 ル者ニシテ、表証バカリニアラザル故ナリ、ヨクク勘弁ス
 ベシ、枯婁根ノ功能、己ニ經篇ニ説クトイヘバ、各其方意ニ
 ヨリテ、活用アリト知ルベシ、コノ証ナド一身氣道、太陽表
 位ニ逼迫シテ、水血ソレガ為ニ係累セラレテ、順環ヲ失ヒ
 タル所ヲ、ヨク一身ノ氣道ヲメグラシ開クニツヒテ、水血

初テ順通ヲ得テ、血氣相交和スルナリ、血分ノミニ係ルト
思フベカラズ、

○太陽病、无汗而小便反少、氣上衝胸、口噤不得語、欲作剛瘧
葛根湯主之、

コノ条モ同ク太陽自發ノ剛瘧ノ証ヲ示シタルナリ、ソレ
葛根湯ノ証ハ、太陽表証ニシテ、血道ノ變ナルヲ、經篇ニ明
カナリ、故ニ血分ノ証ニシテ、項背強直ナルハ云ニ及バズ、
一身ノ水ヲモシメテ、无汗トナリ、而シテ水氣皆上ニ引上
ラレ、下ニメグラズシテ、小便反少トナル、コレ表証ナレバ、
汗ハアリテモナクテモ、裏下ノ小便ノ多少ニハ、カ、ハラ
ヌ、ナルベキニ、コノ証ハ上逆ノ勢ニテ、裏下ノ水迄ヲツ

リアケテ、少キ故ニ反ト云字ヲ置リ、コレ表位ニテ十分ニ
水血ノカラミ強ク、頭項肩背ニ引付テ、自由ナラザル迄ニ
及ブ勢ニテ、裏下ノ氣、并ニ水迄ヲ引上ル故ニ、小便反少、氣
上衝胸ナリ、其上口噤不得語ノ甚シキニ至ル、コレ項背ニ
テ強クカラミタル證候ナリ、コレヲ剛瘧ト云、コ、ニ欲作
ノ字ヲ置タルハ、始ヨリノ瘧病ニアラズ、太陽病ヨリカヤ
ウニナル者ナレバナリ、コレ裏証ハ客ニシテ、太陽ノ主ト
ナル証ナレバ、葛根湯ノ主タル瘧病ナリ、コノ口噤不得語
ト、舌強不得語トニ、表裏ノ違ヒアリ、今項背ヲ強ク握リテ、
試ムベシ、舌ハ何事ナクテモ、口ノ開合悪クシテ、語ヲナス
不能ハズ、コレ表証ニシテ口噤ノ証ナリ、又積氣等ニテサ

レコミ、氣上衝胸モノハ、項背ニ事八十ケレ、舌強不得語者アリ、コレ胸中裏ノ方主タル者ニシテ、舌強ノ証ナリ、コノ二証表裏ノ主客アリ、ヨクク辨別スベシ、

○救卒死客忤死、還魂湯主之、即麻黄湯

コノ条ハ、真ノ雜療方中ニアリシヲ、今コ、ニ出シテ、前ノ枯婁桂枝湯ト、葛根湯ト、コノ麻黄湯トノ三方ハ、皆表証ノ瘧病ニカ、リテ、各差別アルヲ知シム、サテ卒死、客忤死トハ、卒カニ物ニ驚テ取ツメルカ、又ハ可驚トニモアラ子氏、其病者ノ心ニ、心ワルク思フカ、又ハ何事ニヨラズ、己ガ好マザルヲ、人ヨリ仕カケラレタリ、又ハ思ハザル大事ニテ、心ヲ勞スル処ヨリ、俄ニ取詰ル等ノ病ヲ云リ、忤ノ字

ハ、サカラフト訓シテ、病者ノ了簡ニ忤逆シテヨリ起ル故ナリ、客ハ外ヨリ来ルノ意ナリ、世上ニテハ、只一槩ニ積氣ト云ナラハセリ、コレ乃チコノ還魂湯ノ主タル証ナリ、其外痘瘡ノ序熱、或ハ麻疹、又ハ外熱、或ハ驚動ニヨリテ、俄ニ目ヲ見ツメ、齒ヲクヒシバリ、一切引付ル証ニ、枯婁桂枝湯ト、葛根湯ト、麻黄湯トノ別アリ、外發シテ開キノ付ク者多シ、又同じ引付ニテモ、裏熱実証ノ者ハ、次ニアル大承氣湯部類、又ハ備急紫圓ノ類ナリ、コレ亦表裏ノ主客ヲヨクク別ツベシ、

○瘧為病、胸滿口噤、卧不著席、脚牽急、必齧齒、可与大承氣湯、コレハ裏實ノ瘧病ニシテ、ヤハリ角弓反張スル証ナレ、

前々ノ条ト位異ナリ、コノ証ハ俄ニ積氣ニテ、取ツメルカ、
 又ハ驚動ヨリ起ルカ、或ハ高キ処ヨリ落ルカ、或ハ顛仆シ、
 又ハ宿疾ノ毒氣アル者、ワヅカノ食物ニ中ラレ、又ハ食滯
 宿食等ニテモ、忽チ取ツメテ、胸滿スル者ナリ、コレ腹部ノ
 氣モ水血モ、胸中へ上突スル故ニ、胸滿ヲナシ、忽チ人事ヲ
 省セズシテ、口噤スルナリ、コノ口噤ハ、葛根湯ノ証ト、形ハ
 似タレ、凡、裏ヨリナス所ノ者ニシテ、証ハ異ナリ、臥、不着席
 トハ、角弓反張ノ形ニシテ、横ニ寐テモ、橋ノ如クニソリカ
 エリテ、席ニ著カザルナリ、其上口噤ノ中ニ齒ギリヲナセ
 リ、コレ一通りノ口噤トハ違ヒテ、心胸中ニ劇ク迫リタル
 故、其上突ノ勢ニテ、カヤウニ齒ギリヲスルナリ、故ニ必齧

齒ト云リ、コノ症上突シテ、胸中以上ニ寢アリトイヘ、凡、全
 ク腸胃ヨリ上リタル者故ニ、先下サズンバ、上部ノ瘧病和
 ラギ難シ、腸胃和シテ後、尚上部ニ迫ル処アラバ、其証ニ從
 テ、太陽少陽ヲ解スベキナリ、故ニ可_ニ大承氣湯ト云テ、主
 之トハ云ズ、イヅレ急卒ノ証ニシテ、大承氣湯ヲ煎スル間
 毛待ガタキ_一アリ、其時ハ先_一ヲ備急丸カ、紫圓ノ類ヲ用テ、
 急ニ下スベシ、コノ処ニハ、拳ゲザレ、凡、ソノ証ノ少シヅ、
 ノ進退ニヨリテ、大柴胡湯、又桃枝承氣湯等ノ証アリ、ヨク
 く差別シテ、診ヲ誤ル_一ナカレ、余コレ迄數百人ヲ診シタ
 ル中ニ、大柴胡ニ黃連葛根ヲ加テ治シタルアリ、又先年浪
 花ニテ、大船ヨリ小船ニ米ヲ轉輸スル、輸漕、肩ニ俵ヲ負テ、

歩ノ板ヲ踏ハヅシテ、板ヲ跨ル時、忽ニ暈倒シテ人事ヲ省ミズ、角弓反張シタルニ、挑枝承氣湯ヲ与テ功ヲ取レリ、此等ノ証ヲモ併セ考テ、同じ裏症ニシテ、下劑ノカ、ル者ニモ、上中下ノ差別アルヲ察スベシ、附方ノ処ニ、裏証ノ症病ニモ、千金ノ還魂湯ノ一方ノ、韭根烏梅吳茱萸ノ三味ノカ、ル者ト、備急丸トノ証ヲ出シ置リ、皆口噤卒暴ノ証ニシテ、症病ノ部類ナレバ、併セ考テ治ヲ處置スベシ、以上九ヶ条ハ、症病ノ三陽ニ涉ル証ヲ、一一示シタル者也、
 □濕家之為病、一身盡疼、一云疼煩發熱、身色如薰黃也、
 前ニモ説キ示シタル如ク、濕トハ、俗ニ云ヒエト同じトニテ、其人ノ宿ニヨリテ、色々ノ証アリトイヘ、先一身ノ

水氣子バリ滞リテ、常ノ如ク順環セザル故ニ、總身イタミダルク、或ハ瘀血ヲ兼、氣ヲ兼テ行ラザルヨリ、發熱ヲナシ、水血ノメグリアシク滞ル故ニ、一身ノ色ヲスボリタル様ニ青黒ク、又ハ黄色ヲモ帯ルナリ、コレコノ凡例ニ、先濕家ノ大体ノ模様ヲ見セタルナリ、

□濕家、其人、但頭汗出、背強、欲得被覆向火、

コレ亦一種ノ濕家ニシテ、濕家ノ二字ニ、總身ノ瘀汁ノ不順環ノヲ云ズシテ、含マセタルナリ、其人ノ二字アルハ、頭汗出ヨリ以下ノ病状ハ、外ノ病ニモアリテ、濕家ノミニ限ラヌ故ナリ、サテ頭汗出ハ、虛實共ニ、表外ニ向テ發スルヲ能ハズシテ、裏ニアル所ノ氣熱、夕バ心胸以上、頭面マテ

毛上衝スルニ付テ、下部ニアル所ノ物マデモ、皆ワリ上ラ
 ル、故ナリ、サテ其上衝スルニ、虚実ノ別アリ、コノ証ハ虚
 ノ方ニシテ、瘵汁ノ為ニ、陽氣ガ一身ヘノビザルニ依テ、虚
 気心胸ヨリ、頭上ニ向テ上衝スル故ニ、頭汗出ナリ、陽氣表
 ヘノビヌ処カラ、背部ノ瘵汁瘵血メグラズシテ、背強ノ病
 状ヲナシ、陽氣ノメグラザルヨリ、總身何トナク寒冷ナル
 ヤウニ思テ、被ヲ覆ヒ、又火ニアタリタキ心持ナリ、故ニ欲
 得被覆、向火ト云リ、コレハ上ノ条ノ表部ニ瘵汁アリテ、瘵
 熱スル者トハ、位少シ深クシテ、心胸頭面ノ部ノ主タル湿
 家ナリ、坊本ノ金匱要畧ニハ、本文ノ下ニ、若下之早則噦、或
 胸滿、小便不利、舌上如胎者、以丹田有熱、胸上有寒、渴欲得飲、

而不能飲、則口燥煩也ノ数十字アレバ、右ノ本条ノ証ヲ、早
 ク下シタリトテ、コノ様ニナルト、タシカニ極リタルナ
 ケレバ、姑クコレヲ削ル者ナリ、コノ証ニコレマデ、柴胡桂
 姜湯、或ハ五苓散、又ハ茯苓沔瀉湯等ヲ用テ功ヲ得タリ、然
 レバ、コノ条ハ凡例ナレバ、右等ノ變化ノ条ハ、姑ク削リ去
 ルナリ、

□風湿相搏、一身盡疼痛、法當汗出而解、值天陰雨不止、医云、
 此可發汗、汗之病不愈者、何也、蓋發其汗、汗大出者、風湿偏勝、
 是故不愈也、若治風湿者、發其汗、但微々似欲出汗者、風湿俱
 去也、

コノ条モ同ジ湿家ナレバ、外邪ヨリ湿氣ヲ動搖シテ、一身

ノ疼痛スル証ニシテ外邪ノ風氣ト共ニ湿ヲモ発シテ和
 スベキ者ナリ故ニ法當汗出而解ト云リサテソノ時節ニ
 天氣陰リテ雨ノ止ヌニ値リコレ梅雨五月雨ノ時分ト見
 ヘタリ湿家ノ病客ハ雨天ニナルト惣身タルク重クナル
 者ナレ凡発汗スベキ証ナレバ医者ガ発汗スベシト云タ
 ルナリコノ発汗ハ誤ニ非ズタゞ医者ノ口上ヲ述タルナ
 リ故ニ医云ト云ノ字ヲ入タリ時ニ発汗シテ右ノ病ノ不
 愈者ハ何ゾヤト自問自答ノ文ナリコノ証発汗スルハ當
 リ一ヘナレ凡長雨ノ時分ト云ヒ湿氣ヲ外邪ニテ動揺シ
 タル時ナレバ発汗シテ大ニ汗出テハ外邪ハ去レ凡内ノ
 メグリ調ハズ又発汗ニテ再ビ動揺スル上ニ天ノ陰雨ニ

テ湿氣ヲ含ミヤスレ故ニ不愈ナリ坊本ニハコ、ニ風氣
 去湿氣在ト云語アレ凡一向ニ疑シ夫風氣トハ外邪ニモ
 セヨ物ニ驚キタルニモセヨ又ハ発汗吐下等ノ藥ノ變ニ
 テモ其人ノ氣血水共ニ動揺シタルヲ風ト云ノ義已ニ医
 学警悟ニ精ク論ジタリ然ルニコノ語発汗シテ風氣ノ外
 邪ハ去リタレ凡湿氣サバケズ陰雨ニヨリテ、マスキ含シ
 テ愈エザルナラント推察シタル理窟解シナレバコノ語
 ヲ削リテ風湿偏勝ト改メタリコレハコノ病者ヲ数人療
 ゼシ中ニ発汗シテ汗ハ出ルトイヘ凡風ニアタレバ直ニ
 故ノ如ク一身疼痛スル者アリ又雨湿梅雨ナドノ時分ハ
 別シテ再ビ疼痛ヲナシヤスレ其証ヲトクト察スルニ汗

出テ一旦湿気ハトレテモ、風気ノ動搖ノコル片ハ、又再ビ
 湿気モ滞リテ、疼痛ヲナス者ト、又汗ニツレテ、風気ノ外邪
 ハ発散シテモ、湿气和セザル片ハ、ソノ発散ノ動搖ニテ、湿
 気相連テ、又疼痛ヲ生ズ、故ニ风湿共ニ和セザル中ニ、湿ノ
 勝ト、風ノ勝トノ違ハアレ、少シノ輕重ニテ、ヤハリ风湿
 共ニ和セザル者ナリ、然レ、凡發汗シテ愈ザル病ニ、右ノ如
 ク风湿ノ輕重アル、病者ニ徴シテ得ル所ナレバ、發汗シ
 テ愈エザル、其時ノ端的ヲ以テ、风湿偏勝ト語ヲ改メタル
 ナリ、不愈後ハ、风湿両方共ニ歷然トシタル証多シ、ヨク
 觀察シテ、理窟ノ解ニ陥ル、ナカレ、コノ証ヲ治スルニハ、
 衣被ヲ覆フテ、手足マデモ能ク包ク、チククト汗ヲ發スベ

シ、昼夜共ニ衣類ヲカエズシテ、ジタクト出レバ、乍チ疼痛
 ハ止ムナリ、然レ、凡其最中ニ、大小便ノ催シアリテ、風ニ露
 スレバ、又乍チ元ノ如ク疼痛ス、故ニ二日モ三日モ、乃至八
 九日マデモ、病毒ノ和シテ、風ニアタリテモ、疼痛ノナキ處
 ヲ目當トシテ、治ヲ施スベシ、由テ治風湿者、發其汗、但微々
 似欲出汗者、风湿俱去也ト云リ、

□湿家病、身疼、發熱、面黃而喘、頭痛、鼻塞、而煩、其脉大、自能飲
 食、腹中和无病、病在頭中寒湿、故鼻塞、内藥鼻中則愈、
 此身疼發熱ハ、始ノ凡例ト同ク、面黃モ亦身色如薰黄ト云
 ニ同ジケレ、凡、コノ証ハ身色ハサマデモナク、面色バカリ
 黄ムナリ、コレ面ノミ黄ト云ニツヒテ、已ニ上部ニ逆スル

勢ノアルヲ察スベシ、痰汁上行シテ、頭面ノ部ニ上迫スル
 故ニ、内ノ水モ上迫シテ喘ヲナス、ソノ勢頭痛ヲモナセリ、
 コノ証ノ頭痛ハ、外邪ノ頭痛トハ異ナリ、昼夜共ニ頭痛シ
 テ、劇ニ至レバ、日光火光等ニテモ厭ヒテ、屏風ヲシメマハ
 シ、暗夜ノ如クニシテ、引籠リ居ル者アリ、勿論気逆モ強ク
 シテ、煩シ、鼻中閉塞シテ、香臭酸辛ヲ聞ザルノミナラズ、頭
 面共ニ手ヲ以テ抱撫シテ、暫クモ放チガタキ者アリ、脈ニ
 モ上迫ノ勢アラハレテ、大トナル、然レ、凡人々ノ宿ニヨリ
 テ、イロクノ脈アレバ、一涯ニ片寄ルベカラズ、サテ腹中ハ
 无病ニテ、飲食ハ平生ト同ジニシテ、惱ム所ハ頭中ノ寒
 湿ニアリ、故ニ鼻塞ナリ、薬ヲ鼻中ニ内ル片ハ愈ト云リ、コ

、此方ハナケレ、氏、金匱ノ集註ニハ、瓜蒂ノ末ヲ鼻中ニイ
 ルハトアリテ、方ヲ補ヘリ、又細辛皂莢ノ二味ノ末ヲイル
 、説モアリ、何レニ方共ニ、鼻中ヨリ濁涕ヲトル趣向ナレ
 ハ、其趣意ハ同ジキナリ、而レ、氏コ、ニ色々ノ証アリ、薬ヲ
 鼻中ニイレテ、直ニ濁涕出テ、頭中ノ寒湿大ニ緩ミ、頭痛ノ
 頓ニ去ル者アリ、又薬ヲ鼻中ニイル、ニ、乍チ頭面腫痛甚
 シク、少シニ眼ヲ開クヲ能ハズシテ、大ニ悩乱スル者アリ、
 往々見聞ニ及ベリ、コレラハ同ジ頭中ノ寒湿ナレ、氏、痰毒
 ニカラミ付ラレタル症ニシテ、湿汁バカリニアラズ、先年
 此ノ如キ証アリ、前医、瓜蒂粉ヲ用テ、頭痛裂ガ如ク、頭面洪
 腫シテ、絶食ニ及ベリ、故ニ余桂枝桔梗湯ニ、夏枯艸葛根石

羔ヲ加テ用ヒシニ、一月餘ニシテ瘵毒少シク去リ、後二年
バカリニシテ平愈シタリ、ヨクく八条目ヲ推明メテ、治ヲ
施スベキ者ナリ、

口太陽病、關節疼痛而煩、脈沈而細者、此名濕痺、濕痺之候、小
便不利、大便反快、但當利其小便、

コレハ太陽ノ部ニ、瘵汁ノアル証ニシテ、惣身皮表ノ不順
ヨリ、コノ病ヲ生ズルヲ示シタリ、サテ太陽表部ノ氣ノ
和セザル証ナレバ、元來宿ニ瘵濕ノアル証ニシテ、主トシ
テ瘵汁ノ變ナルガ故ニ、關節疼痛スルナリ、何レ表ニ向テ
水氣ノ和セザル者ハ、皆關節ニ痛ヲ生ズル中ニモ、コノ証
ハ瘵汁ナレバ、常ノ水ヨリハ、子バリ凝ル處甚シト知ベシ、

而煩ハ、瘵濕ノ凝リニ付テ、裏氣モ俱ニ迫リテ、胸中ヲ始メ、
惣身ジユツナクシンドキナリ、由テ陽位ノ表實ノ証カト
見レバ、左ニアラズ、元來陽氣不順、血分ノ滯リヤスキ証ニ
シテ、氣十分表マデ達スルカ、ナク、其カノナキ處ニ、瘵汁凝
結シテ、疼痛ヲナスナリ、故ニ脈ハ沈而細トナレリ、コレ病
形ハ陽實ノ表証ノヤウニ見ヘテ、陰虛ノ如キ脈ヲアラハ
セリ、以上ノ証ヲ濕痺ト名クルナリ、痺ハ血分不順ニシテ、
陽氣ノ助ケナキ証ナリ、ソレニ濕ヲ兼タル証ナレバ、濕痺
ト云ナリ、サテ濕痺ノ候ヒヤウハ、惣身ノ瘵汁水氣不順ナ
ル故、小便不利ナリ、然レバ陽實ノ症ニアラザレバ、大便ノ
方ハ、小便トハ打カハリテ、快通スルナリ、但不利ノ小便ヲ

通シテ、惣身ノ瘧汁水気ヲ行ラヌベキナリ、故ニ但當利其小便ト云リ、コノ条太陽病ト冒首ハアリテモ、湿痺ト名ケタル処ト、又脈ノ沈而細ナル処ト、經篇ノ少陰病、身体痛、手足寒、骨節痛、脈沈者、附子湯主之トアル処ヲモ、ヨク併セ考テ、陰陽虛実ヲ誤ルナカレ、已上ノ五ヶ条ハ、皆湿病ノ凡例ナリ、コレ亦本文ニ舉ル者トハ、各差別アルヲ知ルベシ、

○湿家、身煩疼、可與麻黄加朮湯、發其汗為宜、慎不可以火攻之、

コレ本条ノ始ニシテ、他証ヲ贅セザレ、凡例ヲ照シテ見レバ、其証湿家ノ二字ニテ明カナリ、コノ証ハ元來瘧汁湿

気ノアル人ナレ、凡、気ノ迫リニ付テ、水湿メダラザル者ナレバ、身煩疼スルナリ、煩疼ノ煩ノ字ニテ、気ノ迫リニツレテ、湿汁ノ滯リタルヲ見ルニ足レリ、故ニ發表ヲ主トシテ、気水共ニ發散スルナリ、コノ方朮アリテ、麻黄湯ノ正証トハ違ヒ、裏水モ共ニ利スルナリ、コレ元來气道ヨリ起リタル証ナルニ、湿ハ寒冷ノ部類ナリト心得テ、陽氣ヲ行ラシ火ニテアブリ、或ハ灸治等ヲスレハ大ニ害アリ、彼ノ少陰篇ニ、少陰病得之一二日、口中和、其背惡寒者、當灸之トアルニヨク似テ、陰陽気血ノ別アルヲ察スベシ、コレ上ノ条ノ湿痺ノ者ト、同ジ水湿瘧汁ノ証ニシテ、辨別アルヲ示シタルナリ、

○病者、一身盡疼、發熱、日晡所劇者、名風濕、此病傷於汗出當風、或久傷取冷所致也、可與麻黃杏仁薏苡甘草湯、
 コノ条モ同ジ湿症ナレバ、風濕ノ者ヲ示シテ、前条并ニ凡例ノ湿痺ト、辨別アルヲ知ラセタリ、サテ病者一身尽ク疼ムハ、瘀汁、外邪或ハ事ニ觸レテ動搖スル者ニシテ、其動搖ヨリ、一身ノ水氣行リヲ失フテ、表外ニ凝滯シテ和セズ、故ニ一身尽ク疼ムナリ、其上惣身皮表ノ血、ガサクト枯燥シテ、表ノ血分ニワトリトセザルヨリ、熱ヲ發ス、コレ血分ノ衰ナル故ニ、日晡所ニ至レバ、其熱劇クナルナリ、コレヲ風濕ト名クルナリ、コノ証俄ニ疼ヲ生ズル者アリ、或ハ痛ハ甚シカラズシテ、身体并ニ手足ノ指マデモ、自身ニハタラ

クノ出来ヌ者アリ、然レバ、心胸中ニ衰ナキ故ニ、飲食ニハサハリナシ、本文ニハ言ザレバ、凡例ノ頭中ノ寒湿トヨク似タル者多シ、コノ麻黃杏仁薏苡甘草湯ヲ用テ、被ヲカ、ゲス、一兩日モ微々トシテ、汗ノ出ルヤウニスレバ、疼ハ治スレバ、トクト治セヌ中ニ、風ニアタレバ、又直ニ疼ヲ生ズ、故ニ始終汗ノカハカ又様風ニアタラヌ様ニスヘキ証ナリ、此病傷於汗出當風、或久傷取冷所致也トアルハ、注文ニシテ、コノ病ノ由テ来ル所ヲ述タルナリ、随分コノ通リヨリ来ル者モアリ、又元来ノ湿痺家ノ外邪ヲ受テヨリ、此ノ如クニナル者モアリテ、一涯ニ偏リ難シ、方後ニ有微汗避風トアルハ、至極尤ナルナリ、コノ藥ハ、本方ノ麻黃湯

ノ、桂枝ヲ薑仁ニカヘタルナリ、又元來塵分ニシテ、裏水ノ
 痰汁ヲ兼ル者ハ、コノ上ニ朮附ヲ加ル一モアリ、ヨクク気
 血ノ辨別ヲナスベシ、經篇ニモ説シ如ク、麻黄湯ト麻杏甘
 石湯トハ、同ジ气道ニシテ表裏ノ別アリ、コノ麻杏薑甘湯
 ハ、麻黄湯ノ証ニ似テ、表ニ血ノ和セザル処アリ、麻杏甘石
 湯ノ証ニモ似テ、裏ノ気ノ衰ナク、表ニ痰水ヲカラシテ、血
 ノ和セザル處ナリ、ヨクク察スベシ、薑苴仁ハ、血ノ滋潤ノ
 ヌケテ、ザラクスルヲヨク和スル功アリ、痰其外魚ノ目ノ
 類ニ用テ殊功アリ、試テ知ルベシ、

○風湿、脉浮、身重、汗出、惡風者、防己黄芩湯主之、
 コノ条モ同ジ風湿ナレ、凡、痰汁表ニ凝ル一ナク、夕、動搖

シテ、表へ張り出スバカリナリ、故ニ疼ハナクシテ、身重汗
 出惡風スルナリ、脉ノ浮ナルモ、表氣ノ迫ルニアラズ、裏ノ
 痰汁ノ表ニ張り出ス勢ニテ、アラハル、浮ナリ、故ニ防己
 ヲ以テ表ニアル水ヲユルメ、黄芩ヲ以テ表ニアリテ凝ル
 迄ニ至ラズシテ、行ラヌ水ヲ裏へ行ラシ、朮ヲ以テ水道ヲ
 利ス、甘艸生姜大枣ハ、經篇ニ明ナリ、方後ニ喘者加麻黄ト
 アルハ、彼ノ水気咽喉ニ迫リテ、杏仁ノカ、ル者トハ、少シ
 チガヒ、表上ニアル水気、和セザルニ由テ、咽喉ノメグリ惡
 シクシテ來ル喘ナリ、胃中不和者、加芍藥トアルハ、腹中ノ
 水気、コトクク上表ニ張出シテ、腹中ノ血ノ和セザルヨリ、
 胃中不和ノ者ナレバ、芍藥ヲ加ルナリ、コレ經篇ノ建中湯

ノ芍薬ト同じ、芎ノ上衝ニ桂枝ノカ、ルハ、經篇ニ委ハシ、下有陳寒者、加細辛トアリ、陳寒トハ舊寒ノ一ニシテ、元ヨリ水血共ニ寒トカラミトヂタルニテ、今新ニ閉タルニアラズ、細辛ヨク其水血ヲホドキ行ラス功アリ、彼厥陰篇ノ當歸四逆湯ノ条ニ、内有舊寒者ニハ、呉茱萸生姜ヲ加ルヲ云、凡本方ノ細辛モ、水血ノカラミトク功アリテ、舊寒ニカ、ルヲ知ルベシ、服後當如虫行皮中トアルハ、防己黄芩湯ノ忘ズル証ニシテ、表水裏下へ行グリテ、緩ム形容ナリ、故ニ被ヲ以テ下部ヲ包ミマハシ、膏以下ニジタミト汗ヲサスレバ愈ルナリ、コレ上ノ条ト同じ風湿ナレ、凡痛ノアルトナキトノ差別ニテ、方モ違フナリ、

○傷寒八九日、風湿相搏、身体疼痛、不能自轉側、不嘔、不渴、脉浮虛而濇者、桂枝附子湯主之、若大便堅、小便自利者、去桂加白朮湯主之、

○風湿相搏、骨節疼痛、掣痛不得屈伸、近之則痛劇、汗出、短氣、小便不利、惡風不欲去衣、或身微腫者、甘草附子湯主之、

コノ二ヶ条ハ、風湿ニシテ表裏ノ差別ヲ示シタルナリ、太陽下篇ニテ委シク説示シタルバ、コ、ニ贅セズ、

已上湿ノ部類、凡例五ヶ条、本条五ヶ条、合シテ十ヶ条、各辨別アル病状ヲ説示シタルナリ、

□太陽中暍、發熱惡寒、身重而疼痛、其脉弦細、衄遲、小便已、洒々然毛聳、手足逆冷、小有勞、身即熱、口開、前板齒燥、若發汗、則

惡寒甚、加溫針、則發熱甚、數下之、則淋甚、

コレ暈病ノ凡例ニシテ、コノ条ニ虛脱ノ者ヲ示シ、次ノ本
条ニヶ条ニ、実スル者ヲ示シタリ、夫太陽中暈トハ、暑邪、太
陽部ニ中リタルナリ、宿ノ強弱ニテ、虛実ハカハレ、凡暑邪
ノ一故、中風ノ太陽へ中リタルトハ異ニシテ、其勢傷寒ト
同シ、コレ暑熱太陽表位ヲ犯シタルヨリ、気血共ニ逼迫シ
テ、發熱惡寒ヲナシ、其上裏ノ水モ共ニ變ヲ生ジテ、内ヨリ
モ傷寒ノ如クハリカエス、故ニ内外共ニ水氣滯リテ、身重
クナル、其重キ者ハ、裏水ノ變ニシテ、一身皮表迄モ張り出
ス故ナリ、コノ証若シ自汗出ル凡ハ、内ヨリ迫ルバカリニ
シテ、表ニ變凡キ者ナレ、凡今表ニモ邪アル故ニ、自汗出ル

一ナシ、故ニ而疼痛ヲナセリ、サテ經篇ノ温病ニテモ、身重
キ者ハ、自汗アリテ疼痛ナシ、傷寒ノ大青竜湯ノ條ニモ、身
不疼但重トアリ、其外陽明病ニテモ、身ノ重キ者ハ、皆自汗
アリテ、疼痛ナシ、コノ篇ノ風湿ニモ、身疼痛ニハ、重キヲ云
ズ、重キ者ハ、汗出テ疼ナシ、然ルニ今コノ証ニ、發熱惡寒、身
重而疼痛アル者ハ、コレ暈病ニテ、内外共ニ變ノアル候ナ
リ、故ニ發汗バカリモ當ラズ、元ヨリ下劑ノ証ニモアラズ、
ヨク虛実ヲ洞明シテ、治方ヲ處スベシ、若脈ノ実シタル凡
タシカナラバ、汗下モカ、ルベケレ、凡弦細朧遲トナル者
ハ、病狀ノミ實シテ、脈ハ虛シタル者ナリ、強ハヒツハリア
レ、凡底ニカラナシ、細ハ中ニシマル形ナレバ、実トモ云難シ、

乾ハ中ノ空虚ナル脈ニテ、裏ニカ、ノナキナリ、遲モ虚実ア
 レ、氏、弦細乾ノ三脈ノ勢ニテ見レバ、全ク虚分ノ候ナリ、コ
 ノ脈ヲ一人ニツロヘタルニハアラ子氏、一ツニツニテモ、
 此ノ如キ脈状ノアラハル、者ハ、乍チニ脱証ニ陥ル者多
 ケレバ、ヨク察スベシ、サテ小便已、洒々然毛聳ハ、脱セント
 スルノ候ナリ、其上手足逆冷スル者ハ、イヨク虚分ニ意ヲ
 ツクベシ、ワヅカノフヲシテモ、身ニ熱ヲ生ズ、故ニ小、有、勞
 身即熱ト云リ、且口ヲアクト、直ニ前ノ板齒燥クハ、コレ暑
 熱ニテ病勢ハ甚シケレ、氏、津液上ニ竭テ、ウルホヒノ行ラ
 ガル候ナリ、以上ノ証ヲ、若誤テ発汗スレバ、表陽亡ビテ惡
 寒甚シクナル、コレハ脱症ノ惡寒ナリ、又温針ヲ以テ却カ

ス片ハ、表氣一ス、凝テ、発熱劇クナル、或ハ数下之片ハ、小
 便ノ通利甚アシクナル、コレ上ニ小便已、洒々然ト云タル
 ハ、氣上ニ迫リ、水不順ニシテ通ジ難キヲ、死理ニキバリテ
 スル心持ナレバ、下劑ヲ度々用レバ、下イヨクメダラズ、水
 氣ノ通利アシキ故ニ、淋甚シキナリ、コレ暑熱ニテ、陽氣ノ
 シマリアシキ時節ニ、一ス、陽氣内ヲ守ラズ、発熱惡寒、身
 重而疼痛スル中ニ、小便スルト、總身ニ水ヲソ、ダガ如ク、
 惡風寒ト同様ニ、毛ノ穴ノ立ツ者ハ、多クハ脱セントスル
 証ナリ、以上ノ諸証ヲアゲテ、治方ノ俄ニ處シ難キヲ示シ
 タリ、暑邪ニテ病勢ハ甚シトイヘ、氏、忽チ虚脱ニ及ブ者ハ、
 多クハコレ等ノ証ナレバ、ヨクク虚実ヲ詳ニシテ、治ヲ誤

ルナナルベシ、

○太陽中熱者、喝是也、汗出、惡寒、身熱而渴、白虎加人參湯主之。

太陽中熱ハ、上ノ凡例ニ説ク所ノ喝ノナレバ、シツカリト示シテ、喝是也ト云リ、サテ中熱トイヘバ、太陽部ニ暑邪ノ中リタル者ニシテ、汗出惡寒ストイヘバ、邪熱ノ為ニ裏氣上迫シテ、身熱ヲナセリ、其上而渴ト、渴ノアラハル、迄裏熱ノ上迫スル証故ニ、太陽表位ハ輕クシテ、裏熱ノ上迫ノ重キ恣ナリ、元來暑中ハ、邪ヲ受ズトイヘバ、津液外漏シテ、常ニ汗出テ渴スル者多シ、水ヲ飲テ和スレバ治スルハ、彼ノ太陽上篇ノ五苓散ノ条ニアル、水バカリニテ愈ル者

ナレバ、其上ニ邪ヲ帶テ、胃熱動テ上迫スレバ、汗出惡寒ノ表病ハアリテモ、胃熱ノ散漫上迫スル勢ニテ、内ノ津液熱ノ為ニ涸渴シ、血氣共ニ凝迫ス、故ニ身熱而渴スルナリ、依テ裏証ヲ主トシテ、白虎加人參湯ヲ用ルナリ、コレ太陽下篇ニアル、太陽病ト、傷寒トノ二ヶ条ハ、少シク表ニ裏ヲ帶ルトイヘバ、裏熱主トナルヲ以テ、白虎加人參湯ヲ用ヒタルトヨク似タリ、タゞ喝ト、傷寒ト、太陽病トノ差別ハアレバ、少シク表ノ不和ヲ帶テ、裏熱ノ主タルハ同ジ証候也、○太陽中喝、身熱疼重、而脈微弱、此以夏月傷冷水、水行皮中所致也、一物凡蒂湯主之、

コレ亦喝ニテ致ス所ノ病ナリトイヘバ、元來冷水ニ傷レ

テ、喝ヲ受クベキ因ノアルヲ示シタルナリ、然レ、凡、喝ヲ病
 ズンバ、コノ証ナシ、冷水ニ傷レズンバ、又コノ喝ヲ受ズ、コ
 レ内、冷水ニ傷ラレ、外、喝ヲ受テ、コノ証ヲ病ムナリ、サテ凡
 例ハ、發熱惡寒アリテ、其上ニ身重而疼痛スル証、前条ハ汗
 出ル故ニ、疼痛ナク、且惡寒ハアレ、凡、發熱ニアラズシテ、身
 熱ヲナシ、其上ニ渴アリテ、白虎加人參湯ノ証ナリ、コノ条
 ハ、身熱疼重ヲナセリ、身ノ字ヲ熱疼重ノ三ニカケテ見ル
 ベシ、コレ凡例ノ身重而疼痛ト、前条ノ身熱トヨ一ニシタ
 ル証ナレ、凡、惡寒ハナシ、同ジ喝病ニテモ、此ノ如クニ差別
 アルヲ、ヨクク識取スベシ、コノ証ハ暑熱ニ堪エズシテ、灌
 水ヲナシ、又ハ水ナドヲ飲テヨリ、水氣惣身ニタマリテ、疼

重トナレ、凡、飲ミタル所ノ水和セズシテ、脈ハ微弱ナリ、若
 熱ノ為ニ、内ノ水凝滯スレバ、凡例ノ如ク、發熱惡寒アリテ、
 身重疼痛ヲナスベシ、又身熱アリテ、裏水表ニ浮ベバ、汗出
 惡寒、身熱而渴ノ証ニナルベケレ、凡、元ヨリ冷水ニ傷ラレ
 テ致ス所ノ者故ニ、身熱疼重ノ病状ニ、脈ハ至テカラナシ、コ
 レ水サヘサバケバ、身熱疼重モ和スベキ証ニシテ、一物凡
 蒂湯ノ主ル所ナリ、太陽下篇ノ凡、蒂散ニ、此、為胸有寒ト云
 テ、胸中ノ寒ヲ吐スレバ、胸中痞鞭、氣上、衝胸、不得息等ノ病
 状ノ和スルヲ以テ、凡、蒂ハ水ノカラミタルニカ、ルヲ
 知ルベシ、上部ニアレバ吐シ、下部ニアレバ利シ、一身ニア
 レバ小便ヲヨク通ズル物ナリ、

己上凡例一ヶ条、本文二ヶ条、合テ三条、知_レ喝_レ有_レ差別焉、
瘧湿喝_レ篇通計廿二ヶ条、表裏虛実ノミナラズ、一病ニテ六
経ヲ貫クノ緯ヲモ示シタルナリ、ヨクク會得スベシ、

△千金還魂湯、治_レ卒忤、鬼擊、飛尸、諸奄忽、氣絶、无_レ復寬、或已无
脈、口禁物、不開、去齒下湯、湯入口不下者、分病人、髮左右足踏
肩引之、藥下、復增取_一升、須臾立甦、即麻黄湯

コノ条ハ金匱要畧ニハ、奥ノ雜療方中ノ還魂湯ノ細注ニ
テアリシヲ、還魂湯ハ、瘧病ノ葛根湯ノ次ニ序テ、細注ハコ
ノニウツシ、附録トナシテ、瘧病ノ部類ニ在ベキヲ知シム、
サテ卒忤トハ、前ニ説シ如ク、卒ニ物ニ驚クカ、或ハ何事ニ
ヨラス、好マザル_一ヲ人ヨリ強テ仕カケタリ、又ハ思ハザ

ル大事ニテ心ヲ勞スル処ヨリ、俄ニ取ツメルヲ云リ、忤ノ
字、サカラフト訓ジテ、病者ノ了簡ニ忤逆シテヨリ、乍チニ
起ル病ナリ、サテ取ツメテ人事ヲ省セザル故、其形状ハ目
ニ見ヘサレ、尸、何物ゾ来テ撃テ惱スガ如キヲ、鬼撃ト云、コ
レ撃者ハナケレ、尸、病者ノ苦惱スルヲ形容シタルナリ、飛
尸モ恣然リ、一向昏冒シテ死人ニ同ジキ者ガ、色々ニ体ヲ
動搖シテ、穩カナラザル形状ヲ云、其外一種ニアラス、故ニ
諸ト云、奄忽ハウツトリトシタル負ヲ云、故ニ氣絶シテ復
タ覺ル_一ナシト云リ、其上ニ脈モ絶シ、口モ禁シテ、拗トコ
ダハリテ開カヌ等ニハ、急卒ノ_一故ニ、齒ヲ扣キ折リテモ、
コノ還魂湯ヲ下スベシトナリ、今ハ乃チ曲頭管ヲ用ル場

処ナリ、口ニ入テモ咽ニ下ラザル者ハ、病人ノ髪ヲ分テ、左
右ノ足ニテ肩ヲシツカリト踏テ、強ク髪ヲ両方ヘ引クベ
シ、薬下ラバ、ダンク増テ飲スベシ、直ニ呼吸モユルンテ甦
ルナリ、コレ表氣ノ迫リテ取詰ル病ニシテ、麻黄湯ノ証ナ
リ、委クハ本文ニ載タレバ、併セ考フベシ、
△又方、韭根一把、烏梅二七個、呉茱萸半升、右三味以水一斗
煮之、取三升、去滓、分飲之、

コレハ雜療方中ニアリシヲ此ニ出シ、附録トナシテ、上ノ
病状ト同ジトニテ、表裏ノ差別アルヲ示シタルナリ、上ノ
如キ病状ニテモ、己レガ心中ニ迫ル疝アリテ、裏氣胸中ニ
衝テ取ツメル疝ハ、コノ方ニテ開クナリ、コレ己ニ本文ニ

凡例ノ痙病ト、括婁桂枝湯ト、葛根湯ト、麻黄湯ト、大承気湯
トヲ以テ、一一説キ示シタルガ如シ、ソノ中ニ参連湯ノ疝
モアリ、又大柴胡湯ノ疝モアルトハ、其病者ノ宿ト虚実ト、
病位ノ差別トニヨレリ、委クハ本文ニ説示シタレバ、再ビ
贅セズ、併セ考フベシ、

△千金三物備急丸、主心腹諸卒暴百病、若中惡客忤、心腹脹
滿、卒痛如錐刺、氣急口禁、停尸卒死者、以煖水若酒服大豆許
三四丸、或不下、捧頭起、灌令下咽、須臾當差、如未差、更与三丸、
當腹中鳴、即吐下便差、若口禁、亦須折齒灌之、

コレハ雜療方中ヨリコ、ニ出シテ、上ノ還魂湯ト、又方ノ
差別ノ外ニ、下劑ノカ、ル痙病アルヲ知シム、其餘紫圓

ノカ、ルモ亦コレニ同シ、委クハ本文ノ大承氣湯ノ下ニ
説リ、併セ考フベシ、

此篇凡例本条附録通計二十五ヶ条ヲ以テ、瘧濕喝ノ大体
ヲ盡セリ、

補新瘧

△千金方、太陽中風、重感於寒濕、則瘧瘧也、瘧者、口噤不開、背
強而直、如癡癰之狀、搖頭馬鳴、腰反折、須臾十發、氣息如絕、
汗出如雨、時有脫易得之者、新產婦人、及金瘡、血脈虛竭、小
兒瘧風、大人涼濕、得瘧風者、皆死、溫病熱盛入腎、小兒癰熱
盛、皆瘧、瘧瘧厥癰、皆相似、故久厥成癰、宜審察之、其重者、患
耳中策々痛、皆風入腎經中也、不治流入腎、則喜卒然、体瘧
直如死、皆宜服小續命湯兩三劑也、若耳痛腫生汁、作癰瘡

者、乃无害也、惟風宜防耳、針耳前動脈及風府、神良、

△桂枝附子湯、芍藥甘草附子湯、通治發汗後瘧病、及金瘡瘧、

△千金紫湯、治破傷風入四体、角弓反張、口禁不能言、或產婦

隨胎、凡得此者、大重不過五劑、即古今錄驗
八風繞命湯

△千金治卒半身不遂、手足拘急、不得屈伸、身体冷、或智、或痴、

或身強直不語、或生、或死、狂言不可名狀、角弓反張、或欲得

食、或不用食、或大小便不利、皆療之、方古今錄驗名
八風繞命湯人参、桂

心、當歸、獨活、黃芩、干姜、甘草、各十八銖、石羔一兩半、杏仁四

十枚、右九味、以井花水九升、煮取三升、分三服、日三覆

取汗、不汗更合、加麻黃五兩合服、

△三因方紫丸、一名紫圓治小兒瘧蒸發熱不解、并挾傷寒溫壯、汗

後熱不歇及腹中有痰癰嘔乳不進乳則吐哕食癰先寒後熱者代赭石赤石脂各一兩巴豆三十粒杏仁五十粒已上二味為末別研巴豆杏仁為膏相和更搗一二千杵當自相得若硬入少蜜同杵之密器中收

補新濕

△滲濕湯楊氏治風濕身疼不能屈伸多汗惡風目昏項強手足

或厥或痺肢體微腫即理中湯桂枝湯合方加附子茯苓右水煎服コノ方乃桂枝人參湯ニ茯苓芍藥附子ヲ加ヘタルナリ

△除濕湯方百一治寒濕所傷身重腰脚酸痛大便瀉小便或澁

或利即不換金心氣散加白朮茯苓

△白朮加蒼朮湯活人治濕溫病苦兩脛逆冷腹滿又胸多汗頭

目痛苦妄言即本方加蒼朮三兩

補新鳴

△春澤湯要選治伏暑發熱煩渴小便不利即五苓散加人參柴

胡麥門右燈心水煎要訣五苓合四君子湯名春澤湯

△竹葉石羔湯直指治伏暑內外熱熾煩躁大渴

日乃愈若溺時頭不痛漸然者四十日愈若溺快然但頭眩者二十日愈其證或未病而預見或病四五日而出或病二十日或一月微見者各隨證治之

サテコノ百合病ハ古ヨリ明解ナシ余コレヲ疑フ凡二十有餘年一一病者ニ徴シテ明ムルヲ得タリ古人ノ説ク所トハ大ニ蹉躓スレ凡病者ニ的當スレバ疑フベキニアラズ凡ソ外邪ヲ除クノ外一切萬病ノ回トナル者ハ皆此百合病ナリヨク余ガ説ヲ觀念シテ病者ニ臨ム寸ハ大ナル過ナカルベシサテ百合病者百脈一宗悉致其病ト云リ百脈トハ百八種々數多キ義脈ハ診ノ字ノ義ニシテ百脈ト云片ハ百色ニ病狀ノチガフノ義ナリ一宗トハ根

本ハ一色ト云義ナリコレ病狀ハ百脈ト數百種ナレ凡根本ハ一宗ト一ヨリ起リテ色々ノ病ヲ致ストナリ意欲食復不能食ト云ヨリ以下身形如和其脈微數ト云迄ノ病狀ヲトシト考ヘ見ルニ一病ノ形狀ヲ奉テ其餘ハ通篇ノ一病一病皆コノ一宗ヨリ致ス病ナリト見エタリ先余ガ數年病者ニ徴シタル臆説ヲ示スベシ凡ソ小兒初生ノ時ヨリコノ根本ノ一病アリ古人ノ所言先天ノ遺毒ナレ凡其寢化ヲ尽シテ知ル人至テ稀ナリ遺毒ト云ヘバ胎毒其外腫物類ノヤウニ思ハルレ凡左ニアラズ其毒氣道ヲシメテコノニ奉ル所ノ病狀ノ外ニ數ヲソヘ又ハ涕淚悲泣シ又ハ惣身羸瘦シ爵冒少氣等ノ病狀アリテ世上ニテ勞歎

ト称スル病ニ似タルヲ萬々ナリ、其証ヲ觀察スルニ、初生ノ時ヨリ、臍ノ左傍ニ、一ノ塊アリ、ソノ塊初生ノ時、解毒劑ニテ和スル者モアリ、又ハ惣身頭上ニ、瘡ヲ發シテ和スル者モアリ、タトヒ惣身ニ發シ物アリテモ、其塊ノ融化セザル者ハ、小兒ノ時ヨリ、時々腹痛取ツメ等アリテ、世上一般喪ト称セリ、其時ニアタリテ、色々トシテ和スル者モアリ、十歳未滿ノ内ニサバケル者ハ、禍ヲ免ル、者アレバ、若十歳以上迄モ、サバケカヌル者ハ、ソロク氣辭ノ証トナリテ、喪ト称シ勞歎ト称シテ、死ニ陥ル者、枚舉スルニ遑ナシ、ソレ故ニ十歳未滿ノ内ニ、コノ証ヲ見ル片ハ、其時ニ患ル所ナシト雖、コノ塊ヲ和シ置ナリ、コノ塊ハ先天ノ毒ニシテ、

胎内ノ瘀血ナレバ、劇劑ヲ以テ急ニ碎クヲ難シ、故ニ種々ニ工夫シテ、小柴胡加芍藥湯ニ、竹節人參ヲ倍加シテ、一年モ二年モ三年モ用井シニ、惣身頭上ニ種々ノ瘡ヲ發シテ和セリ、其瘡至テシツコキ物ニシテ、瘡中ニ喪ノワク者等往々之^レアリ、サテ其終ニシテ、十歳未滿ノ内ニ和セザル片ハ、其毒塊或ハ左或ハ右、上リテ胸腹ヘサシコミテ、俗ニ云積氣トナルモアリ、或ハ膿潰シテ腸癰ニナルモアリ、其毒下部ニ流レテ、便毒ニ發シ、又ハ下疳瘡トナリ、腰ニ蟠結シテ疝氣トナリ、腸中ヨリ肛門ニ發シテ、痔疾トナリ、下股脚ニ内伏シテ、脚氣トナリ、臍瘡トナリ、又ハ陰股ニ發出シテ、田鼠トナリ、惣身迄モ及ブニ至テ、寢シテ疥癬トナリ、胸腹

ヨリ上ニ衝テ失心狂乱トナリ、輕キハ肝積持トナリ、上ニ
 蟠結シテ喘息トナリ、水ヲ貯エテ支飲トナリ、又膏粱ノ食
 毒ヲ添テ、癥毒トナリ、コノ篇ノ次ニアル、狐惑陰陽毒トナ
 リ、或ハ上部ニ發シテ、牙疳齒齦痛トナリ、又ハ癰瘡トナリ、
 其毒心中ニ迫リテ、顛癩トナリ、又ハ胃上ニ迫リテ、神仙勞
 トナリ、或ハ膈噎トナリ、又ハ中風半身不遂ノ証ニナル等、
 皆コノ一毒ノ變化ニヨレリ、男女トナク、老少トナク、外邪
 ヲ除クノ外、一切萬病ノ起ルハ、皆斯毒塊ノ融散轉變ナリ
 ト知ルベシ、故ニ百脈ハ種々ノ病状ノ一、一宗ハ根本ノ一
 毒塊ナリ、コレヨリ以下、終篇ノ病状并ニ後世ノ醫籍ニ載
 ル所ノ病状、數十百萬ニ變化シテ、定リタル病状ナシトイ

ヘ、凡皆コノ一毒ノ變化ヨリ、虛實陰陽内外起伏ニヨリテ、
 來ル者ナリ、東洞子ガ所謂萬病一毒ト同シ論ナレ、凡彼ハ
 タゞ理ノミ説テ、一切虛實ニカ、ハラズ、毒藥ヲ以テ毒ヲ
 攻ルト云意ニテ、ソノ毒ノ所在ヲ言ズ、病状ヲ不説シテ、攻
 撃一方ニ偏リタリ、余カ説ク所ハ、百脈一宗ノ語ヨリシテ
 其塊物ノ變化、虛實多端ニシテ、病状ニ至リテハ、霄壤ノ隔
 アリトイヘ、凡上ニ説ク如ク、一宗ヨリ起リテ、百脈トナル
 ナリ、百合病ヲ唯一種ノ者トノミ心得タル人多シ、ヨクク
 エ夫シテ、一切萬病ノ根本タルヲ察スベシ、故ニ百脈一
 宗、悉致其病ト云リ、悉ノ字下シ得テ妙ナリ、意欲食以下ハ
 其一宗ノ毒ノ未ダ内伏シテ、潛リアルヨリ、氣道ヲサ、エ

テ然ラシムル者ナリ、世医漫リニ勞致ト云テ、コノ毒ノ所
 為ナルヲ知ズ、一涯ニ虛分ニ偏リ、人參養榮湯ノ類ヲ用
 テ、死ニ陥ルヲ待ツ者多シ、医ノ極弊ト云ベシ、右ノ毒塊内
 伏シテ、氣道ヲ塞ク故ニ、意ニ食ヲ思フテモ、食スルニ懶ク
 シテ、食スルヲ能ハズ、常ニ黙然トダマリテ居ルナリ、欲卧
 不能卧、欲行不能行ト、心ニイロク行卧ヲ思フテモ、其事ヲ
 果スヲ能ハズ、少シノ動作マデモ、イヤニナルナリ、然レモ
 時ニヨリテハ、食物ノ旨キ時モアリテ、快キ様ニモ見ヘ、又
 時ニヨリテハ、湯水藥食ハ勿論、ソレクノ食臭ヲ聞クヲ
 イヤニ思フ時モアリ、故ニ何ゾ外邪ノ不和アリテ、來ル証
 カト見ルニ左ニアラス、又急度少陽部位ニ病邪ノ迫リク

ルヨリ、往來寒熱ノ証ニモアラス、只右ノ毒塊内伏シテ、氣
 道ヲ塞キ、心胸ノ間和セザル故ニ、口苦クナリ、己レガ思ハ
 ク始終ニヤマガルガ故ニ、心腹ニ鬱結シテ、精神ノモヤク
 スルヨリ、小便赤クナルナリ、コノ時ニアタリテ、医者種々
 ニ工夫ヲ回ラシ、温補又ハ攻撃ノ劑ヲ用ヒテモ、少シモキ
 ヲメナシ、藥ヲ用レバ逆ニ動搖シテ、劇ク吐利シテ、実ニ手
 ノ付ケガタキ証ニシテ、俗ニ云ツキモノデモ有、カト思ハ
 ル、証ナリ、故ニ如有神靈ト云リ、然レモサマデ惱ムヲ十
 キヲ以テ、身形如和ト云リ、サテ氣モ血モ、内伏ノ毒ノ為ニ
 和セズシテ、心胸ニアツマル故ニ、脈ハ微數ナリ、溺スル時
 ゴトニ、頭痛スル者アリ、又頭痛ナク、惣身ゾツトシテ、惡風

ノ如ク浙然タル者アリ、又頭眩シテ小水ハ快ク通ズルモ
 アリ、コ、ニ六十日、四十日、二十日トノ日數ニ愈ルト云、
 一向ニ其主意ヲ知ラズ、夕、其頭痛ト浙然ト頭眩トノ愈
 ルノミニテ、全体ノ病毒ノ解スベキヤウナシ、コレハ百脈
 一宗ノ一二ヲ、小水ヲスル時ニ見スルバカリノ様ニ思ハ
 レタリ、強テ解ヲイル、ニ及バズ、サテ其証以上ノ病苦ヲ
 覺エザルサキヨリ、頭眩頭痛等ヲ見ス者モアリ、又ハ口苦
 小便赤等ノ種々ノ鬱氣ノ迫リヲ病テ、後ニアラハル、者
 モアリ、四五日ニシテ見ハル、モアリ、又ハ一月、或ハ二月、
 一向ニ日數ノ定リナシ、唯右ノ根本ノ病毒ノ變化ニ隨テ、
 種々ノ病恁ヲアラハス者ニシテ、治療ニ於テモ極リナキ

故ニ、各隨證治之ト云リ、コノ各隨證治之ノ語ヲ以テ、百脈
 一宗ニシテ、一病ノ定リタルヲ無キヲ察スベシ、丹テ百合
 病ヲ、百合一味ノ加減ニテ治スル、一向コレ迄病者ニ徵
 セザルヲ以テ、善惡ヲシラズ、夕、存シテ後人ヲ待ツノミ、
 コノ恁上ニ説ク如ク、種々ノ病狀ニシテ、定ラザルガ故ニ、
 預メ方ヲ處シ難シ、唯内伏ノ毒ヲ和スルニハ、小柴胡加芍
 藥湯ニ、竹節薑ヲ倍シテ用ルナリ、又其人々ノ宿ニヨリテ、
 黃連又ハ茯苓牡蛎ノ類、或ハ葛根當歸小連翹ノ類ヲ加ル
 モアリ、又心中心下ノ痞鞭スルニハ、生姜瀉心湯ニ加味シ
 テ用ルモアリ、時ニ臨テ斟酌スベシ、
 ○百合病、不經吐下發汗、病形如初者、百合地黃湯主之、

コレ前条ニ述タル如ク、百合ヲ以テ百合病ヲ治スルト云
フ、トクト病者ニ徴シタルコトナケレバ、存シテ後人ヲ俟ツ
ノミ、

○百合病、發汗後者、百合知母湯主之、

○百合病、下之後者、滑石代赭湯主之、

○百合病、吐之後者、百合雞子湯主之、

○百合病、一月不解、寢成渴者、百合洗主之、

○百合病、渴不差者、栝蒌牡蛎散主之、

コノ方、百合病ノ渴ノ不差者ニ、用井タルコトハナケレバ、雜
病ニテ胸中ニ氣滯リ、水氣ヲ貯テ行ラザルヨリ、渴ヲ發シ
テ止ザルニ用テ、屢功ヲ得タリ、

○百合病、寢而發熱者、一作發寒熱百合滑石散主之、

□百合病、見於陰者、以陽法救之、見於陽者、以陰法救之、見陽
攻陰、復發其汗、此為逆、見陰攻陽、乃復下之、此亦為逆、

コノ条ハ、百合病ノ凡例ナリ、コノ篇中ニ取ルベキ条ハ、始
ノ凡例ト、コノ凡例ノミナリ、サテコノ百合病トアル冒首
ハ、始ノ百脈一宗ノ主意ニシテ、既ニ始ノ凡例ニテ説レ如
ク、數百種ノ病状ヲ以テ、百合病ト名ケタレバ、一切萬病ノ
規則ヲ示シタル条ナリト知ルベシ、凡ソ一切ノ病、陰分血
分虛分ニ涉ル者ハ、必ズ陽法ヲ以テ救フベキナリ、陽法ト
ハ、陰病ハ何レモニ陽氣衰乏シテ、陰血ノ不順ナル者故ニ、
陽氣ヲ助ケ、陰血ヲ行ラス所ノ藥ヲ以テ救フベキナリ、乃

子附子干姜ノ類ヲ始トシテ、三陰篇ニアル所ノ種々ノ藥
 方が、即チ陽法ナリ、サテ又陽分氣分実分ニ涉ル者ハ、必ズ
 陰法ヲ以テ救フベシトナリ、陰法トハ、陽病ハ氣熱盛ニシ
 テ、表裏ノ位上下ノ処ニヨリテ、汗吐下和ヲ分ツトイヘ、
 元來氣熱ノ為ニ、水血ノ用ヲナサズ、邪トナリテ病者ヲ苦
 シムル故ニ、早ク尤ル所ノ氣熱ヲ、汗吐下ニテ驅散スレバ、
 水血和シテヨク津液ヲ生スルナリ、故ニ表ナラバ發汗桂
 枝、麻黄湯ノ部類、裏ナラバ下劑、承氣湯部類、裏ニシテ上ナ
 ラバ吐劑、瓜蒂散、少陽ナラハ柴胡部類ヲ始トシテ、心胸咽
 喉ノ位ニカ、ル藥ヲ以テ、陽氣ノ尤ル所ノ熱ヲサバクテ、
 陰法ト云ナリ、若陽病ヲ見テ陰ヲ救フノ藥ヲ与ズシテ、陽

氣ヲ助クル彼ノ姜附ノ類ヲ用テ、補フテモキカ又故ニ復
 再ビ發汗ヲスル、コレヲ陰ヲ攻ルト云ナリ、コレ治療ノチ
 ガヒナレバ、此為逆ト云リ、見陰攻陽トハ、陽氣ノ衰乏シタ
 ル陰病ニ、マスキ陽氣ヲ攻ル藥ヲ与ヘテ、差ザルヲ以テ、再
 ビ又下劑ヲカクルニ至ル、コレ亦治療ノ大ナル誤ナリ、故
 ニ此亦為逆ト云リ、凡ソ陽病ハ実ナレバ、陽氣迫リテ熱ノ
 甚シキ者ハ、必血液カレテ陰ガマケル故ニ、尤ル所ノ陽氣
 ヲ制シテ、陰ヲ助ルヲ以テ主トス、又陰病ハ、陽氣乏クシテ、
 陰ニマケル故ニ、陽氣ヲ助ケテ温ムレバ、陰陽平均シテ愈
 ルナリ、コノ条ハ、實ニ萬病ノ陰陽虚实ノ規則ヲ示シタレ
 バ、平易ニ看過スベカラズ、後ノ陰陽ハ、表裏ノ義ニ見ルモ

宜ト知ルベシ、

口狐惑之為病、状如傷寒、黙々欲眠、目不得閉、卧起不安、蝕於喉為惑、蝕於陰為狐、不欲飲食、惡聞食臭、其面目、乍赤、乍黑、乍白、

コレ上ニ所説ノ毒塊ノ變化シテ起リタル病證ナリ、
醫宗金鑑ニ狐惑ハ、牙疳下疳等ノ瘡ノ古名ニシテ、下疳ハ即チ狐ナリ、肛陰ヲ蝕爛ス、牙疳ハ即チ惑ナリ、咽ヲ蝕シ、齦ヲ腐ラシ、牙ヲ脱シ、腮ヲ穿チ、唇ヲ破ルト云リ、故ニ彼邦ニテ傳聞スル所ノ古名ノ狐惑ハ、乃チ今ノ牙疳下疳ノトニシテ、我邦ニテ瘡毒、微毒、濕毒ト云證コレナリ、今ハコノ狐惑病ヲ、何ノ病ト知ラザル者多シ、按ニ左傳ノ昭公元年ニ、晉

候求_レ医_ヲ於_テ秦、秦伯使_レ医_和視_之、曰、疾不可為也、是謂_ニ近_ニ女室、疾如_レ蠱、非_レ鬼、非_レ食、惑以_レ喪_レ志トアルハ、コノ狐惑病トハ少ク異ナレバ、女室ニ近ツヒテ得タル所ノ病ナレバ、類似シタル病ナリトモ云ベシ、凡ソ百合病ノ毒根ノアル者、酒讌遊興ニ長ジ、房事ヲ以テ樂トナセバ、コノ下疳微毒ヲ皆患ルナリ、故ニ都會ノ地ノ若_レ者トモハ、便毒瘡瘡ヲ病ザル者少シ、コノ毒ノ世上ニ傳染スルハ、先天ノ毒塊ノ變化トハ云ヘバ、女室ニ遠ザカル人ハ、餘ノ瘡ニ轉ジテ、コノ狐惑ヲ免ル、者モ亦多シ、又左傳ノ同條ノ中ニ、晦淫ハ惑疾トアルヲ、杜氏ガ註ニ心ノ惑乱ト解リ、然レバ晦淫ノ過タル者ハ、心ノ惑乱ハ素ヨリノコノ病毒ヲ發スル者多シト知

ルヘシ、左傳ニ又曰、女陽物而晦時、淫則生内熱感盡之疾ト
 コノ文ニテ見レバ、内熱感盡之疾ト云ヘバ、心ノ惑乱ノミ
 ニ偏ルベカラズ、乃チ病名ナリ、盡ト狐ト音通ズ、與ノ五藏
 風寒積聚病篇ノ心中寒ノ条ニ、譬如盡注ト云語アリテ、血
 熱ノ心ニ迫リテ、毒ヲ伏スル者ノ忽ニ撞心スル形状ニ喻
 ヘタリ、コレ盡毒ノ心ニ迫ルヲ以テ、心ノ部位ノ中寒心痛
 ノ甚シキヲ譬テ、盡注ノ如シト云リ、是ヲ以テ觀ルベシ、盡
 狐相通シテ、心胸以上咽喉ニ、毒氣散漫シテ蝕爛シ、牙齦腮
 唇一テ腐壞スルニ至ルヲ、又左傳ノ下ノ文ニ、何謂盡對曰、
 淫溺惑乱之所生也トアルヲ見レバ、イヨク上心胸咽喉ニ
 迫リテ、精神共ニ惑乱ニ至ルナリ、凡ソ多淫多食ノ者ハ、イ

カヤウニ食禁ヲ戒メテモ、已レガ心ガ、飲食房事ニ惑乱シ
 テアル故ニ、實ニ養生ヲ守ル者至テ稀ナリ、ソノ者ハ咽喉
 ヲリ、心胸間ニ毒ノアルニ極リタル者ニシテ、口咽喉爛シ、
 音色嗄喝シ、心事穩カナラズシテ、平卧シテ居ナカラ、瑣細
 ノ一マテニ氣ヲ配リテ、世話ヤキタガル者ナリ、コレ心ノ
 惑乱シタルナリ、サテコ、ニ狐惑ヲ上下ニ分テ、蝕於喉為
 惑、蝕於陰為狐ト云リ、王叔和ガ脉經ヲ始トシテ、諸書ニ云
 所皆コノ本文ヲ傳ヘタルノ説ナリ、喉ヲ惑ト云、陰ヲ狐ト
 云ニ、シカトシタル證據ナケレバ、信シガタシ、古ヨリ其俗
 ニ言傳ヘタルナラシカ、狐惑トモニ心中ニ迫ル物アリテ、
 其毒物喉ニ蝕シ、或ハ肛陰ニ蝕スルノミニシテ、上ハ惑、下

ハ狐ノ説大ニ疑フベシ、且疔ニ蝕スルニハ何ノ名モナシ、下部ナレバヤハリ狐ト云ベキヤ、是等ノ吟味ハ、无用ノナレバ、姑ク之ヲ閣クベシ、只上下共ニ狐惑病ト云ガ穩ナリ、牙疔下疔瘡ト、上下ノ分別ハアレ、疔ノ字ヲ下シタル最妙ナリ、サテ疔ノ字ハ、コ、ニアル所ノ蝕ノ字ノ意ナルニ、世上何ノ時ヨリカ、小兒ノ病ヲ疔ト云出シテヨリ、五疔ノ喪ガアルヤウニ思ヒ、甘味ヲ食シテヨリ起ル病ナリト推量シテ、甘キ物ヲ禁ズルヲ見ルニ、疔ノ字ノ根本ヲ明カニ穿鑿シタルヲナキ様ニ思ヘリ、若シ甘味ヲ食シテヨリ起ル病故ニ、疔ノ字ヲ下シタルナラバ、牙疔下疔ノ疔ハ何トカ云シ、コレモ甘味ヨリ起ルカ、按ズルニ疔ノ本字ハ

示另車

嵌ナリ、嵌關トテ物ノカケテ蝕スルヲ云、象嵌ナドノ如キ肉ノクエコミタル状ナリ、然ルヲ終ニ疔ヲ加テ癩トナシ、又畧シテ疔トナシタルナリ、五疔ノ如キモ、五藏ノ蝕關ノ病ニシテ、ムシバミテ形ノカケタルヲ、終ニ喪アリトテ、疔虫ト言觸セリ、コレ甘ニ从フ字ユエニ、本字ヲ知ズシテ、甘味ヨリ起ルト思ヒ誤リタルナリ、譬バ病症ノ疔ノ字ト同ジトニテ、證ガ本字ナルニ、畧シテ証トナシ、又疔ノ字ニ轉ジタルナリ、ヨクく三思スベシ、偕狐惑之為病ト、狐惑ノ病ハ、元來百合病ノ一毒、心中ニ迫リシヨリ、上ニ蝕シ下ニ蝕シテ、種々ノ病状ヲアラハスハ、其毒ノ顯レタルナレ、疔未ダ上下ヲ蝕セザル以前、毒気心胸ノ間ニ鬱閉シテ、俄ニ癩

熱、惡寒、嘔吐、頭眩、目眩、身疼痛、頭項強痛等ノ病状ヲアラハ
 スナリ、故ニ状如傷寒ト云リ、且心胸鬱閉シテ熱氣アル故
 ニ、氣フサギテ黙々トシテ眠ント欲ス、心胸穩カナラザル
 故ニ、目モ閉ルヲ得ザルナリ、常ニ眠ント欲シテ、寐ラレ
 ガル時テサエ、氣逆シテ心胸へ凝ル者ナリ、况ヤ此ノ如ク
 傷寒ニ似テ、欲眠而目不得閉者ヲヤ、其心胸ノ苦惱ニ堪へ
 ガル故ニ、卧起不安ト云リ、コノ語経篇ノ「梔子厚朴湯」ト火
 逆ノ救逆湯トノ条ニモ出タリ、心胸ノ苦惱ニ堪へ難クシ
 テ、卧モ起モ不安ナリ、ソレヨリ咽喉へ迫リテ蝕シ、又ハ毒
 氣下陰ニ蝕シテ、狐惑病ノ本体ヲアラハスナリ、然レモ心
 胸ノ毒ハ依然トシテ和セザル故ニ、不欲飲食、惡聞食臭ト

リ、諸其面目ノ種々ニ變化スルハ、一ニハ其人ノ宿ニヨリ、
 二ニハ毒熱ノ上逆ト散漫ト鬱結トニヨルナリ、右ノ如ク
 状傷寒ニ似テ、此ノ如クニ天然ノ毒氣ノ動ク証ナレハ、惡
 寒ノ甚シキ片ハ、面目青白又惡寒ヤミテ熱ヲ催ス片ハ、赤
 色ニモナリ、又元來痲毒ノ熱ナレバ、黑色ニモナリ、黄色ニ
 ナル者モアリ、コレ等ハ湿氣ヲ兼タル宿ノ者ナリ、世医ノ
 説ニ、コノ症ハ喪アル故ニ、不欲飲食、惡聞食臭、其面目ノ色
 モ定マラスト説リ、コレ一向ニ訣ノナキコトニハアラザレ
 氏、何ニ由テ喪ガアルト云ニヤ、又動クニヨリテ、病状面色
 種々ニ變化スト云ハ、喪ガアルト云ヨリ推量シタル説ナ
 リ、喪ノアルコトハ随分ナレ氏、ソノ動ニテ、病状面色ノ種

々ニ変化スルト云ハ、覺束ナシ、皆實地ヲ踐ザル者ノ理屈
解シナリ、厥陰ノ心中ニ陽氣潛伏シテ、心中疼熱ノ証スラ、
血ニ虛熱ヲ帶テ、蛇ヲ生ズルアリ、况ヤコノ状如傷寒、毒
熱心胸ニ鬱スル、狐惑病ヲヤ、最モ蛇ヲ生ズベシ、然レ凡蛇
ハ第二義ニシテ、一義ハ毒氣心ノ部位ニ迫リ、其勢ニヨリ
テ上下ノ部ニ蝕スルナリ、狐惑ハ心胸ヲ主トシテ、上下ニ
蝕スル故ニ、蝕於上部則色喎ト云テ、甘艸瀉心湯ヲ繫ギタ
ル、實ニ感歎スルニ堪タリ、餘ハ次ノ条ヲ併セ考テ察知
スベシ、

○蝕於上部則色喎一作甘艸瀉心湯主之、方在經篇

○蝕於下部則咽乾、苦參湯洗之、

○蝕於肛者、雄黃熏之、

コノ三方ヲトクト考へ察スルニ、苦參湯ト雄黃熏トハ、外
治ノ方ニシテ、内藥ニアラズ、故ニ下部ト肛トニ蝕スル片
ノ内藥ハ、何ヲ用ユベキヤト云ニ、如何様ニ肛陰ノ方へ蝕
シテモ、元來狐惑病ハ、心中ヲ以テ主トスル故ニ、心胸ノ毒
氣ノ迫リノ和セザル間ハ、甘艸瀉心湯ヲ内藥トシ、外治ニ
テ肛陰ヲ助ケ、心胸和シテ後、上蝕下蝕ニ忘ジテ、内藥ヲ轉
スベキナリ、然ルニ醫宗金鑑ニ、外治之法、苦參湯、雄黃散、解
毒殺夷、尚屬有理、内与甘艸瀉心湯、必傳写之誤也、姑存之ト
云リ、此何ノ言ゾヤ、狐惑病ノ根本ノ迫ル所ヲ知ズシテ、上
蝕ヲ牙疳トシ、下蝕ヲ疳瘡ニ見タバカリノヲニテ、外治ニ

テコノ毒ノ和スルヤ、和セザルヤヲ知ザル者ト見ヘタリ、
 コレ元実地ヲ踐ザル、素人医者バカリ数十人校合シテ出
 来タル書ナレバ、假令実地ニ符合シテモ偶中ナリ、然レモ
 人ヲ以テ言ヲ廢セズト聞バ、ヨキ処ハ取り用レモ、悪キ説
 甚ダ多シ、按ズルニ字典ニ、喝於邁反、又許葛切、嘶、恚、
 言氣逆也、噎亦所嫁切、音沙、去恚、恚破也トアリ、氣逆シテ毒
 氣咽喉ニ迫リ、恚音カスリテ、平生ノ音恚ニ違フヲ云ナリ、
 二字共ニ恚ノシハガレテ、調子ノハツレタルヲ云ナリ、コ
 ノ甘艸瀉心湯ハ、恚ノ喝噎スルヲ治スルバカリニ非ズ、狐
 惑病ノ根本ノ毒ノ心中ニ迫リタルヲ開キ、上逆シテ喉ヲ
 蝕スルヲモサバクナリ、若毒氣心中ヲ離テ、咽喉ノミ蝕シ、

恚喝噎スルハ、次ノ陽毒ノ涼膈散ノ類考フベシ、併シ恚ノ
 喝噎スル間ハ、甘艸瀉心湯可ナリ、カエス々モ狐惑病ニ、甘
 艸瀉心湯ヲ繫ギタルハ、普通ノ術業ノ及ブ所ニアラス、三
 嘆スルニタヘタリ、脉経ニモ、上ハ呼吸ニ從フテ其咽ヲ蝕
 シ、下ハ肛陰ノ二所ヲ蝕ス、肛陰ノ二、ヲ狐トシ、上ヲ惑トス
 トアリテ、凡例ノ説ト同ジ、按スルニ脉経ニモ猪苓散ノ方
 ナシ、林億等モ吟味セズ、奥ノ嘔吐噦下利病篇ニ、嘔吐而病
 在膈上、後思水者ニ、猪苓散ヲ与エタリ、コノ猪苓散ナルヤ
 否ヲシラズ、故ニ附録トナシテコ、ニ奉ク、
 △脉経云、病人或從呼吸、上蝕其咽、或從下焦、蝕其肛陰、蝕上
 為惑、蝕下為狐、狐惑病者、猪苓散主之、

○病者、脈数无熱、微煩、黙々、但欲卧、汗出、初得之、三四日、目赤、如鳩眼、七八日、目四眇、黄黑、若能食者、膿已成也、赤小豆當飯散主之、

凡ソ脈ノ数ナル者ニハ、熱ノアルガ常例ナリ、然ルニコノ証ハ脈数ニシテ熱ナシ、コレ内ニ伏スル所ノ毒氣アリテ、其毒ノ為ニカラマレテ、熱モ外ニアラハレザルナリ、故ニ上ニ迫リテ微煩ヲナセリ、コノ微煩ガ乃チ内伏ノ熱ト毒トノ所為ナリ、故ニ氣鬱シテ言語ヲ発スルニ懶ク、黙々トダマリテ居ルナリ、其上ニモ膈中ニ熱毒アリテ、上逆シテ胸以上重クシテ、体ヲ横ニシタク思フ故ニ、但欲卧ト云リ、且卧ント欲スル時、内伏ノ熱氣ノ動キノ餘リ、一身ニ及デ

汗出ルナリ、コ、迄ノ証ハ、乃上ニ説ク所ノ狐惑ノ毒ノ、心中ニ迫リテ、カヤウニナル者ナレバ、上ニ同ク先、心胸中ノ熱毒ヲ和スベキ者ナリ、サテ以上ノ病ヲ初テ覺エタルヨリ、三四日ニシテ其心胸中ノ熱毒、内伏ノ一、上逆シテ目赤ナリテ、鳩眼ノ如クニナル、又七八日ニ至レバ、熱毒イヨク上部ニ逆迫シテ、目内ノ赤キバカリニアラズ、目外ヘモアラハレテ、四眇共ニ黄黒ニナルナリ、四眇トハ、眼頭ヲ内眇ト云、眼尾ヲ銳眇ト云、兩眼ノ頭尾合シテ、四眇ト云リ、コレ咽喉ニ蝕スル者ヨリハ、一等上逆シテ眼ニ及ビタルナリ、若食スルヲ能ハサル者ハ、上ノ凡例ニアル如ク、不欲飲食、惡聞食臭者ニシテ、心胸ノ迫リノ未夕和セサル者ナ

レ疴、若能食者ハ、心胸ノ毒和シテ、下部ニ迫リテ肛門ノ方
 へ、毒熱ノマハリタル者ナリ、コ、ニハ膿ノ成不成ヲ云夕
 レ疴、成不成ニカ、ハラズシテ、赤小豆當帰散ヲ用ユベキ
 者ナリ、如何トナレバ、真ノ吐血下血病篇ニ、近血ノ証ニ、コ
 ノ赤小豆當帰散ヲ与エタリ、コノ条モ肛ニアル所ノ毒血
 ヲ和スルヲ目當トスベキナリ、近血トハ、肛門邊ニアル所
 ノ血ノ、大便前ニ下ル証ナリ、前ノ百合病ノ凡例ニ、一毒ヨ
 リ腸癰藏毒ニ変化シ、或ハ腸以下肛ニ流滞シテ、痔疾トナ
 ルト云シハ、コノ症ノ類ナリ、赤小豆ノ功能ハ、經篇ノ陽明
 篇ニアリ、併セ考フベシ、漿水、和名一夜酢、本艸細目ニ、漿水
 一名酸漿、嘉謨曰、漿、酢也、炊粟米、熱投水中、浸五六日、味酢生

白花、色類漿故名、若浸至敗者害人ト云リ、井水トナス説モ
 アリ、又米泔水ニナス説モアリ、紛々一ナラザレ疴、本艸ニ
 説ク所ノ説是ナルニ似タリ、シカシ病証ニヨリテハ、井水
 モ米泔水モ可ナランカ、世俗ニ所謂濕毒ニテ明ヲ失フ夕
 リ、又ハ耳聾、又ハ鼻柱ノ腐敗スル者等、皆コノ毒ノ上部ニ
 蝕スルノ類ナリ、ヨクク三思スベシ、

○陽毒之為病、面赤斑々如錦文、咽喉痛、唾膿血、涼膈湯主之、
 コレ前条ノ下部ニ毒ヲ貯テ、膿潰スル、赤小豆當帰散ノ証
 ニ反シテ、上部表部ニ熱毒ノ散漫シテ、俗ニ所言楊梅瘡ト
 ナリタル者ヲ示シタルナリ、上ノ条モコノ条モ、俱ニ狐惑
 病ノ上蝕下蝕ニ属スル者ニシテ、心胸ノ毒ノ上下ニ散漫

シタルナリ、コノ陽毒ハ実証ニシテ、面部ヲ始メ、總身ニ赤
 斑ヲ生ジ、ダシク膿潰シテ、俗ニ云水瘡ノ如クニナル、其始
 至テ奇麗ナル赤斑ナレバ、錦文ノ如シト云タルモ尤ナリ、
 コレ表部ノミナラズ、咽喉ニモ毒氣迫リ滞リテ疼痛シ、瘡
 ヲ生シテ、膿潰腐爛シテ、咽喉ノ蝕嵌スル者、沢山アリ、夫ヨ
 リ上ノ条ニ説タル如ク、耳目ノ聰明ヲ失ヒ、鼻柱摧ケ、口舌
 壞爛スルニ至ル者多シ、皆涼膈散ノ主ル証ニシテ、升麻鼈
 甲湯トハ、陰陽虛実ノチガヒアリ、按スルニ楊梅瘡ハ、形状
 ノ楊梅ニ似タルヲ以テ名ケタリトイヘ、凡陰毒ニ對シテ、
 陽毒ノ癰毒トシテ見ルモ可ナリ、
 ○陰毒之為病、面目青、身痛如被杖、咽喉痛、升麻鼈甲湯主之、

桂姜艸枣黄辛附湯主之

コノ証ハ、狐惑病ノ上蝕下蝕セズ、表外ニ発セズシテ、惣身
 ノ筋骨ニ伏滞シテ、俗ニ所謂ホ子ウヅキニナリタル証ナ
 リ、表外ニ顯レテ、斑々錦文ノ如クニナリタルガ陽毒ナリ
 又内裏ニ潜伏シテ、筋骨ニ痛ヲ生スルガ陰毒ナリ、故ニ面
 目青ク、血色ヲ失ヒ、惣身ノ痛、杖ニテ撃ル、ガ如ク、筋骨肌
 肉ノ裏ニ、毒血鬱滞シテ、風湿ノ如ク起坐轉側モナリ難シ、
 コレモ狐惑病ノ毒ナレバ、ヤハリ咽喉ハ痛ムナリ、コノ証
 ハ血ヲ和シ、陽氣ヲメダラシテ、毒邪ヲユルムレバ治スル
 者ニシテ、升麻鼈甲湯ノ主タル者ナリ、其内同シ陰毒ノ証
 ニモ、陽氣肌表ニ達セズシテ、麻痺ヲ兼ル者ハ、少シ差別ア
 古川醫傳 卷十四 三 見リ干歲

リテ、桂姜艸束、黃辛附湯ノ証ナリ、ヨクク辨別スベシ、コ、
 ニ肘後千金ヲ引テ、加減シタリ、其意ヲシラズ、加減ハ人々
 ノ宿ニヨリテスベキニシテ、一定ナリ難シ、上ノ条并ニ
 コノ条ニモ、五日可治、七日不可治ノ語アレ、氏、意義通セズ、
 故ニ削リタリ、コノ陰陽毒ノ二証ヲ、醫宗金鑑ニハ、世俗ニ
 所謂痧病トナセリ、似タルハ似タレ、氏、狐惑病ノ毒ノ散
 漫変化ニ本ヅカスシテ、二証トモニ咽喉ノ痛ムヲ、口鼻ヨ
 リ入ル所ノ邪トシタルハ、捧腹スベキナリ、其外諸說皆
 无稽ノ穿論ノミ取ニ足ズ、

△王海藏葛根散、治陽毒身熱而如火、頭痛煩渴、咽喉乾痛、
 コレ陽毒ノ劇症ニシテ、涼膈湯ノ証ナレ、氏、コノ方ヲ王

海藏ガ組タル所ニ、大ニ治驗アリ、故ニ新補ノ附録トナ
 ス、然レ、氏至テ熱ノ強キ証ニシテ、硝黃梔子ノカ、ル涼
 膈湯ト同意ナリ、

△外科正宗、涼膈散、治咽喉腫痛、痰涎壅甚、膈間有火、大便秘
 澁、

コノ方普通ノ涼膈散トハ少シ異ナレ、氏、目當トスル所
 ハ大ニ同シ、上ノ条モコノ条モ、共ニ咽喉ノ痛アレバ、狐
 惑ノ毒ノ変化ニテ、カヤウニナリタルナリ、沉実功モ王
 海藏モ、狐惑ノ毒ニ心ノ附タルヤ否ハ知ラザレ、氏、用テ
 功アレバ、共ニ附録トナシタルナリ、

已上ノ百合狐惑陰陽毒、本文附録新補、併セテ二十ヶ条ナ

レ氏、百合湯ノ部類ハ、存シテ以テ後賢ヲ俟ノミ、何レ百脉
 一宗ノ毒ヨリシテ、狐惑陰陽毒ニ轉變スルト云タルヲ、前
 ニ一人モナシ、古来ノ説トハ、大ニ齟齬スレ氏、余ガ数十年
 ノ經驗ナレバ、當不當ヲ是正スベシ、

古訓醫傳卷十四

大ニ齟齬スレ氏、余ガ数十年ノ經驗ナレバ、當不當ヲ是正スベシ、

